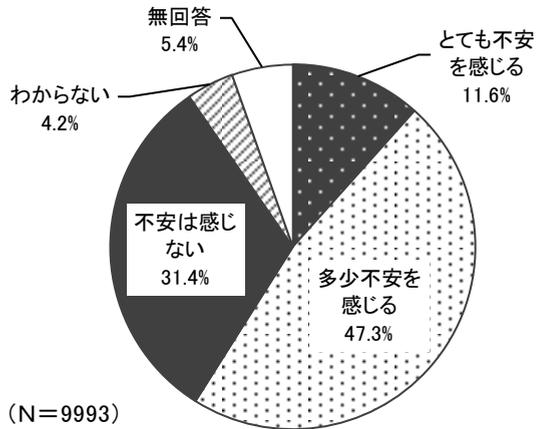


(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

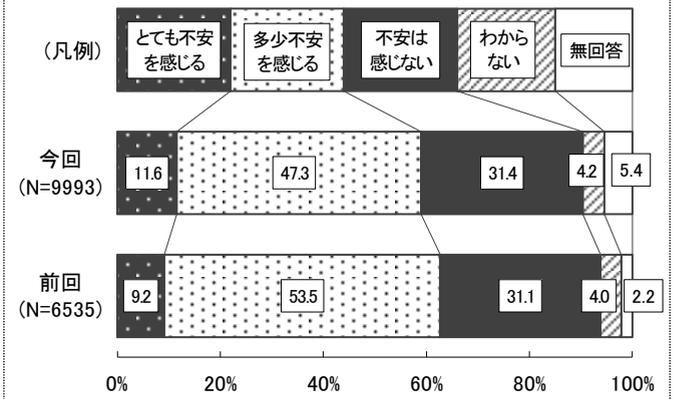
問16 日常生活全般に対する不安

- ・日常生活での不安の有無については、「多少不安を感じる」が47.3%で最も多く、「とても不安を感じる」とあわせると58.9%となっている。
- ・前回調査と比較すると、「とても不安を感じる」は2.4ポイント高く、「多少不安を感じる」は6.2ポイント低くなっている。

【図16 日常生活での不安の有無】

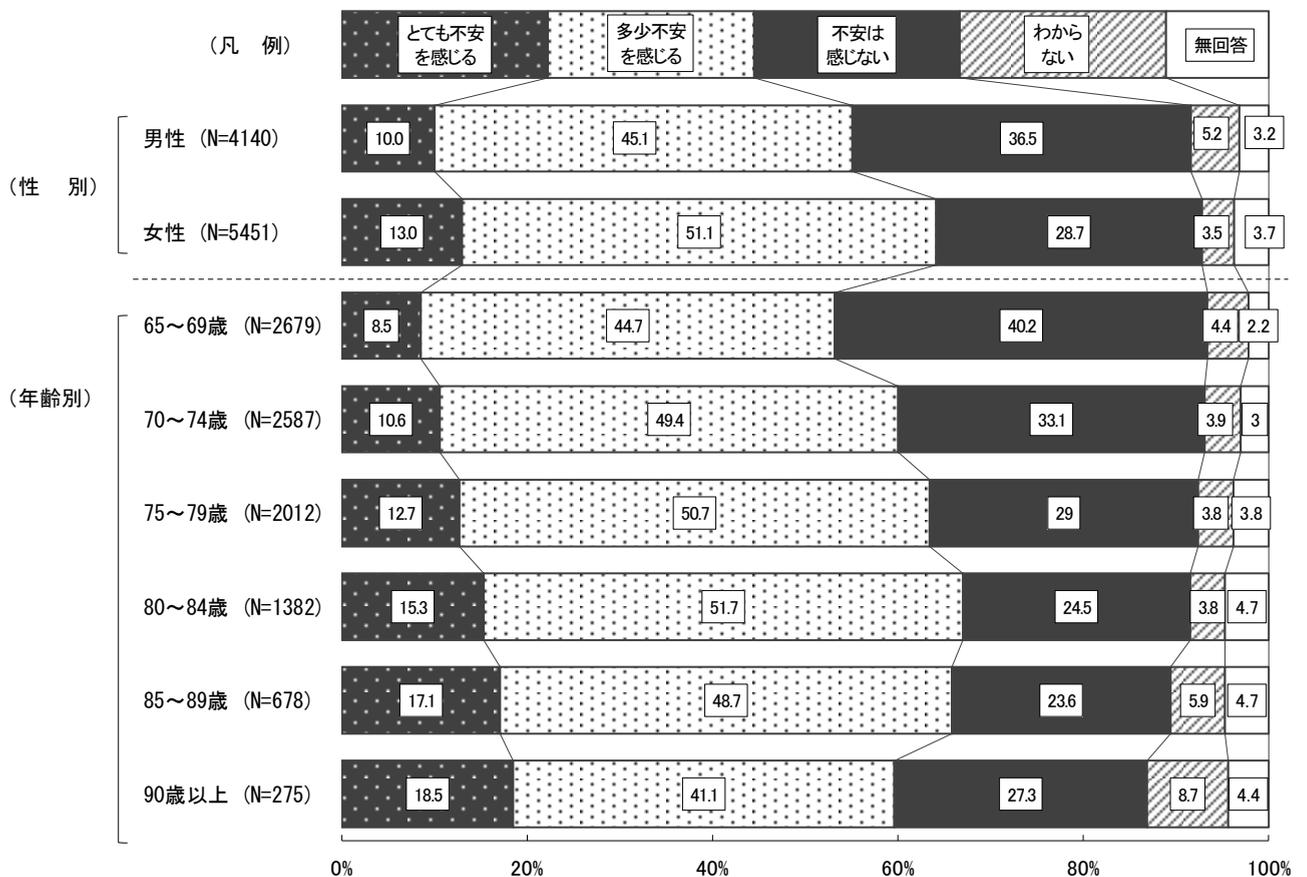


【図16-1 日常生活での不安の有無(比較)】



- ・性別でみると、女性の方が不安を感じているとの回答割合が高くなっている。
- ・年齢別では、「不安を感じない」は65～69歳が最も多い。一方「多少不安を感じる」は80～84歳が最も多く、「とても不安を感じる」は90歳以上が最も多くなっている。

【図16-a 日常生活での不安の有無(性別・年齢別)】

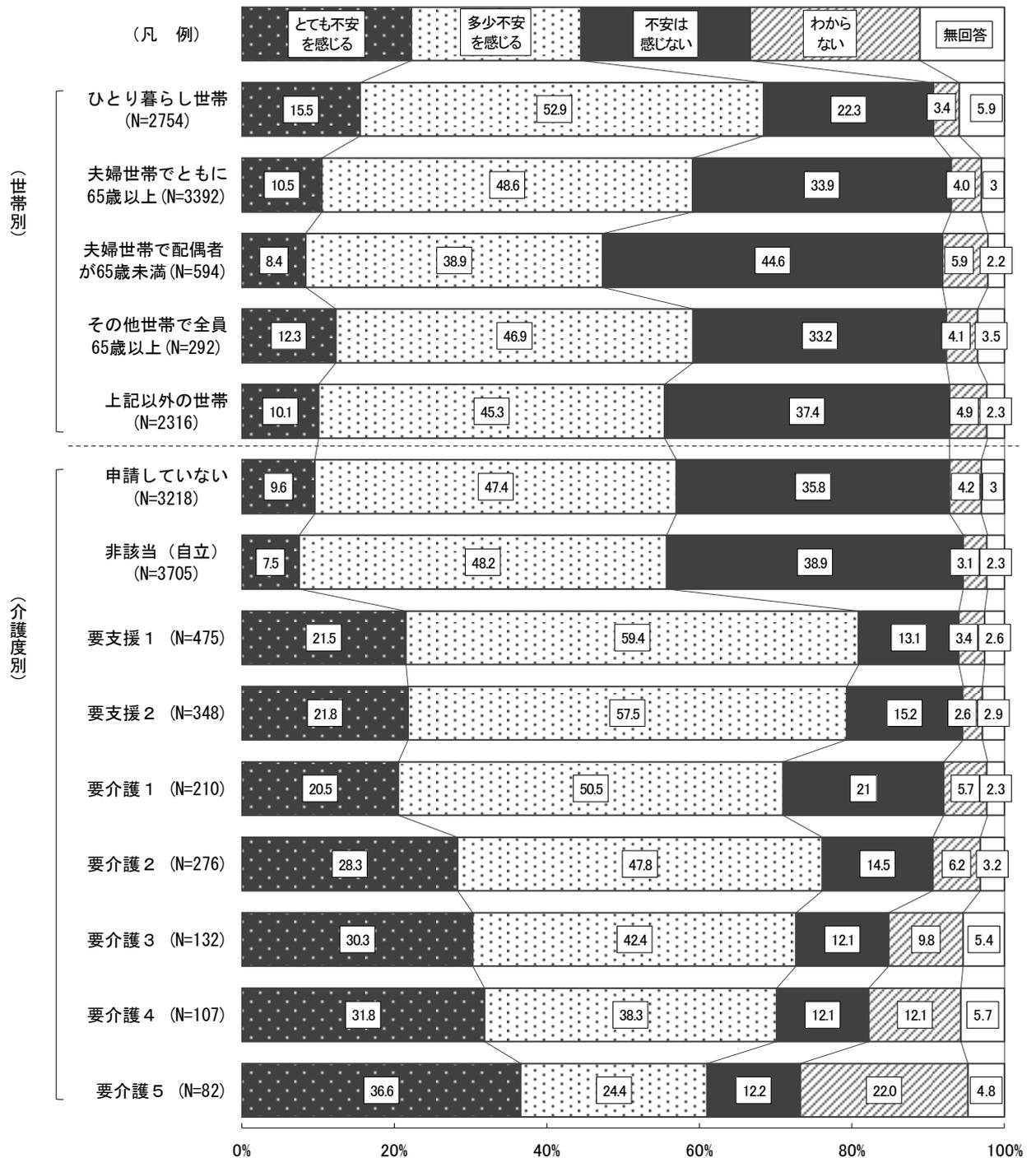


(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

問16 日常生活全般に対する不安 (世帯別・介護度別)

・世帯別で見ると、ひとり暮らし世帯で、「とても不安を感じる」と「多少不安を感じる」をあわせた『不安を感じる』との回答が68.4%と他と比べて高くなっている。
 ・介護度別では、『不安を感じる』との回答が、要支援1及び2では8割近くと高くなっている。介護認定を受けている方は、申請していない、非該当(自立)に比べて、『不安を感じる』との回答割合が高い。

【図16-b 日常生活での不安の有無(世帯別・介護度別)】

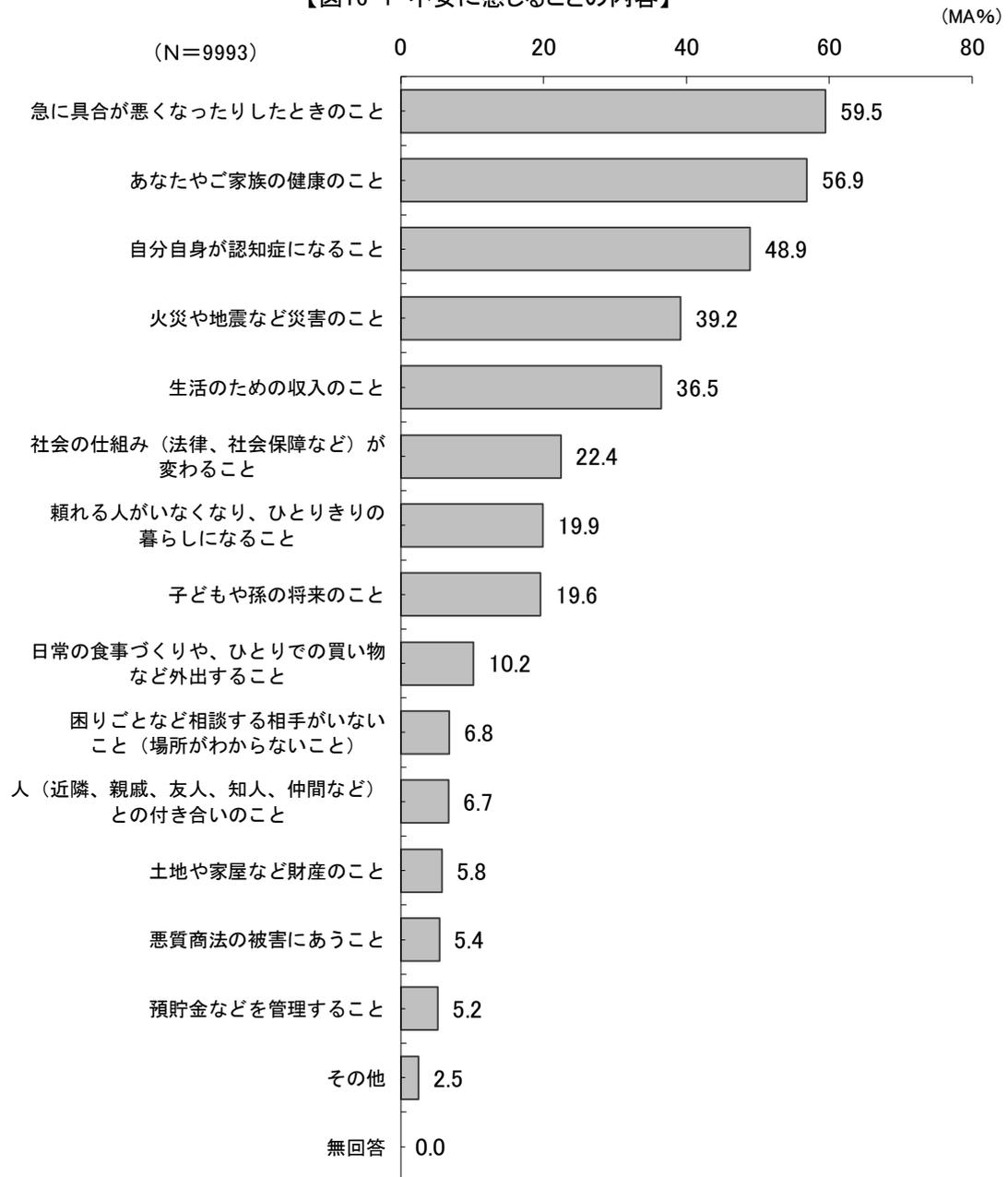


(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

問16-1 不安に感じることの内容

・不安を感じると回答した人に、不安に感じることをたずねると、「急に具合が悪くなったりしたときのこと」が59.5%と最も高く、次いで「あなたやご家族の健康のこと」(56.9%)、「自分自身が認知症になること」(48.9%)、「火災や地震など災害のこと」(39.2%)となっている。

【図16-1 不安に感じることの内容】

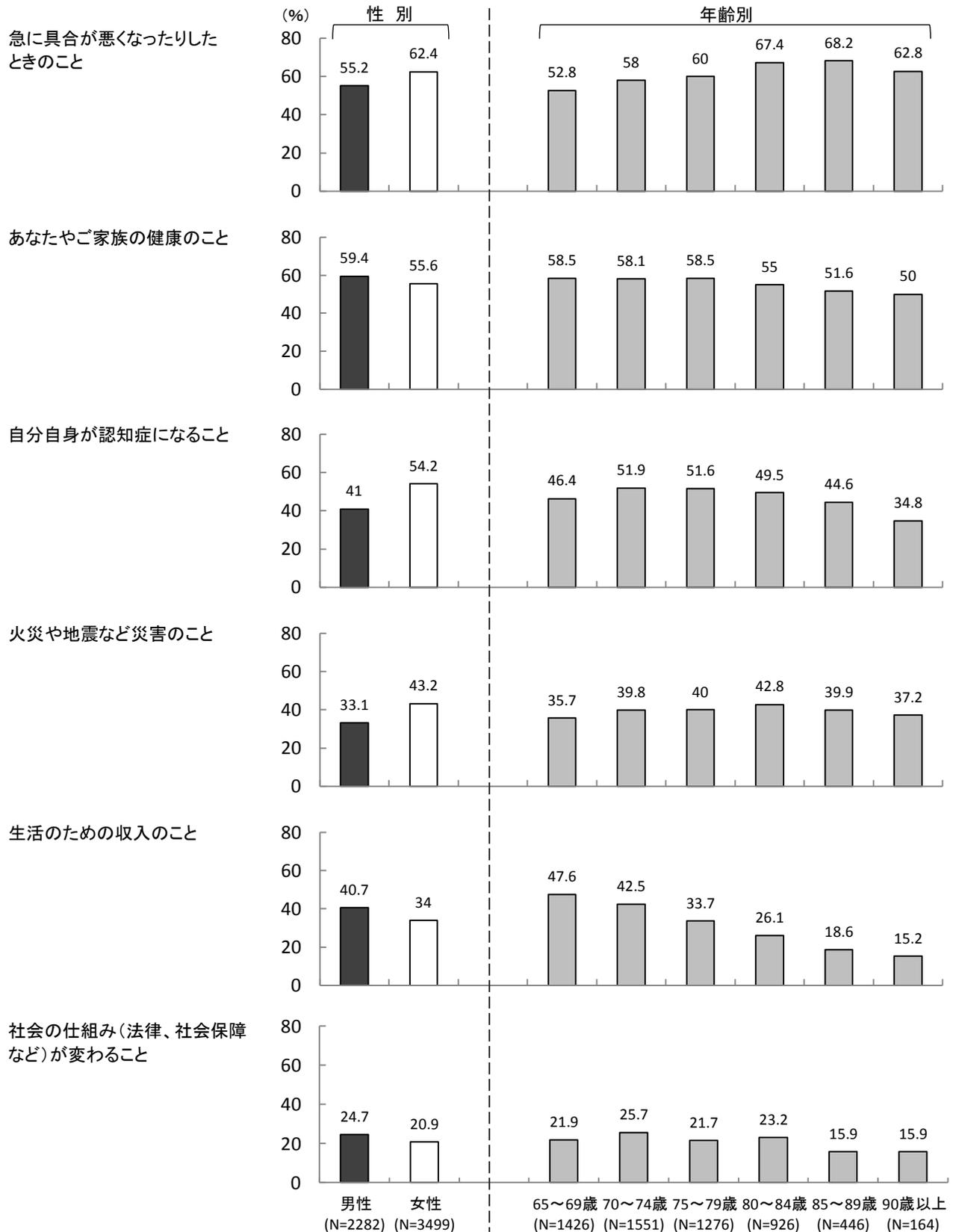


(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

問16-1 不安に感じることの内容 (性別・年齢別)

・性別で見ると、「急に具合が悪くなったりしたときのこと」と「あなたやご家族の健康のこと」は男女ともに50%以上であり、女性はさらに「自分自身が認知症になること」についても50%を超えている。
 ・年齢別では、65歳～79歳までが「あなたやご家族の健康のこと」、75歳以上は「急に具合が悪くなったりしたときのこと」が多い。「自分自身が認知症になること」については70歳代に多い。

【図16-1-a 不安に感じることの内容(性別・年齢別)】

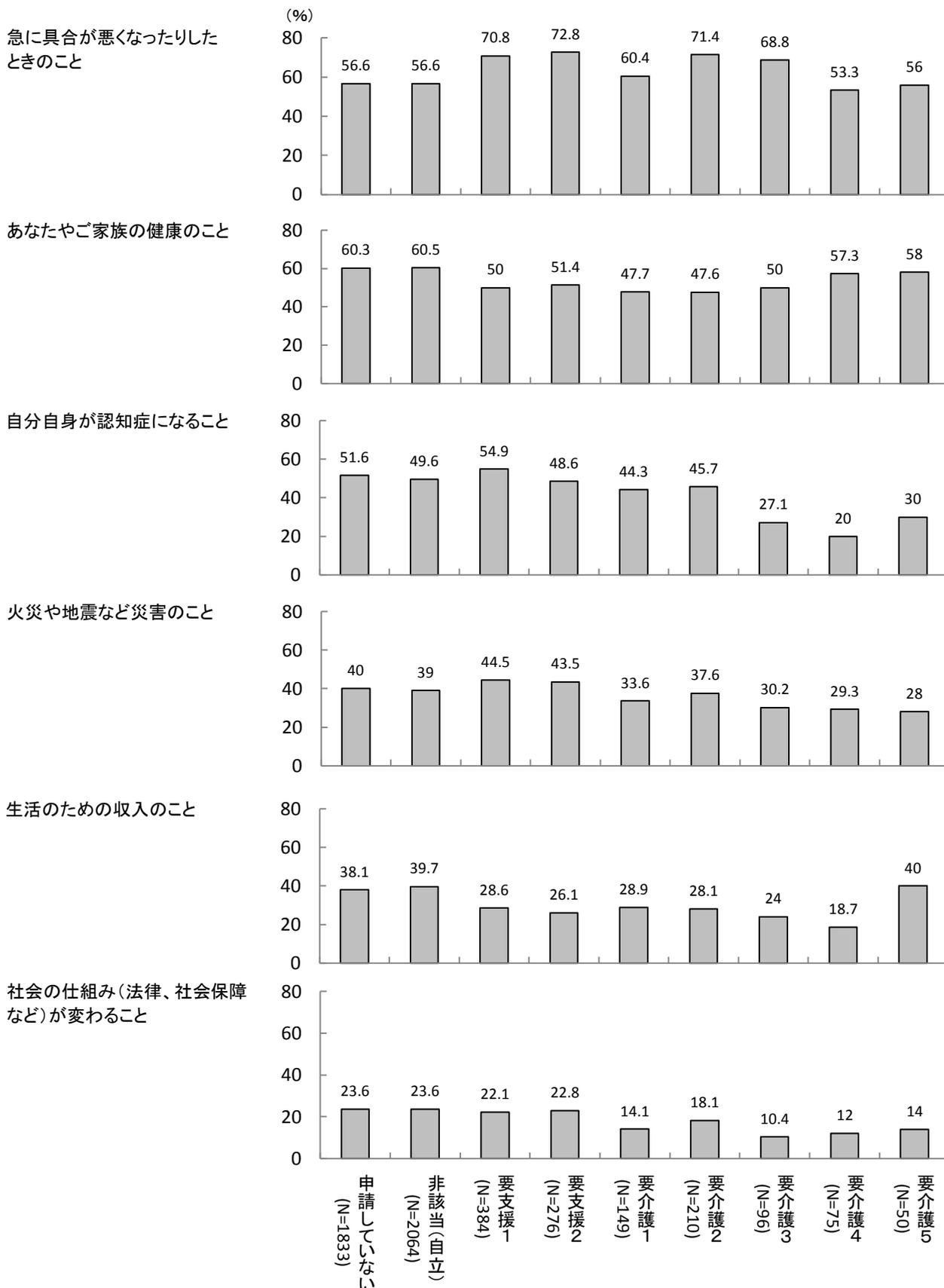


(3) 健康状態、健康に対する意識、日常生活の状況

問16-1 不安に感じることの内容 (介護度別)

- ・介護度別でみると、「急に具合が悪くなったりしたときのこと」は、要支援1から要介護3までで、最も多い回答となっている。
- ・「あなたやご家族の健康のこと」は、申請していない、非該当(自立)、要介護4及び5で、最も多い回答となっている。
- ・「自分自身が認知症になること」は要支援1に最も多く、要介護3以上では、やや少なくなっている。

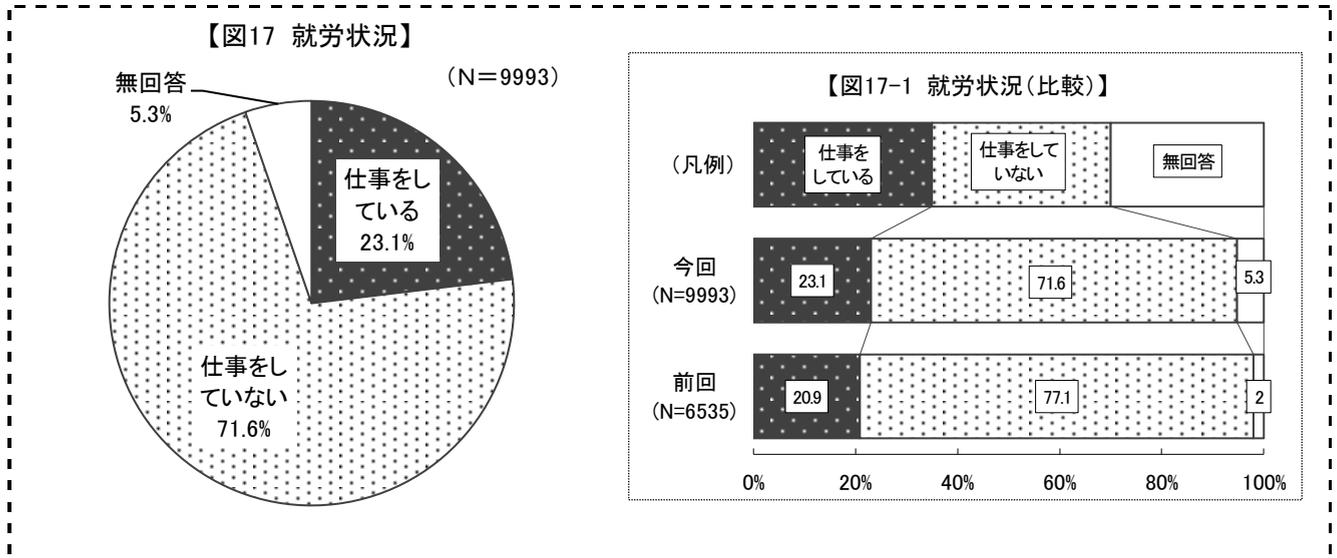
【図16-1-b 不安に感じることの内容(介護度別)】



(4) 就労、地域生活の状況、いきがい

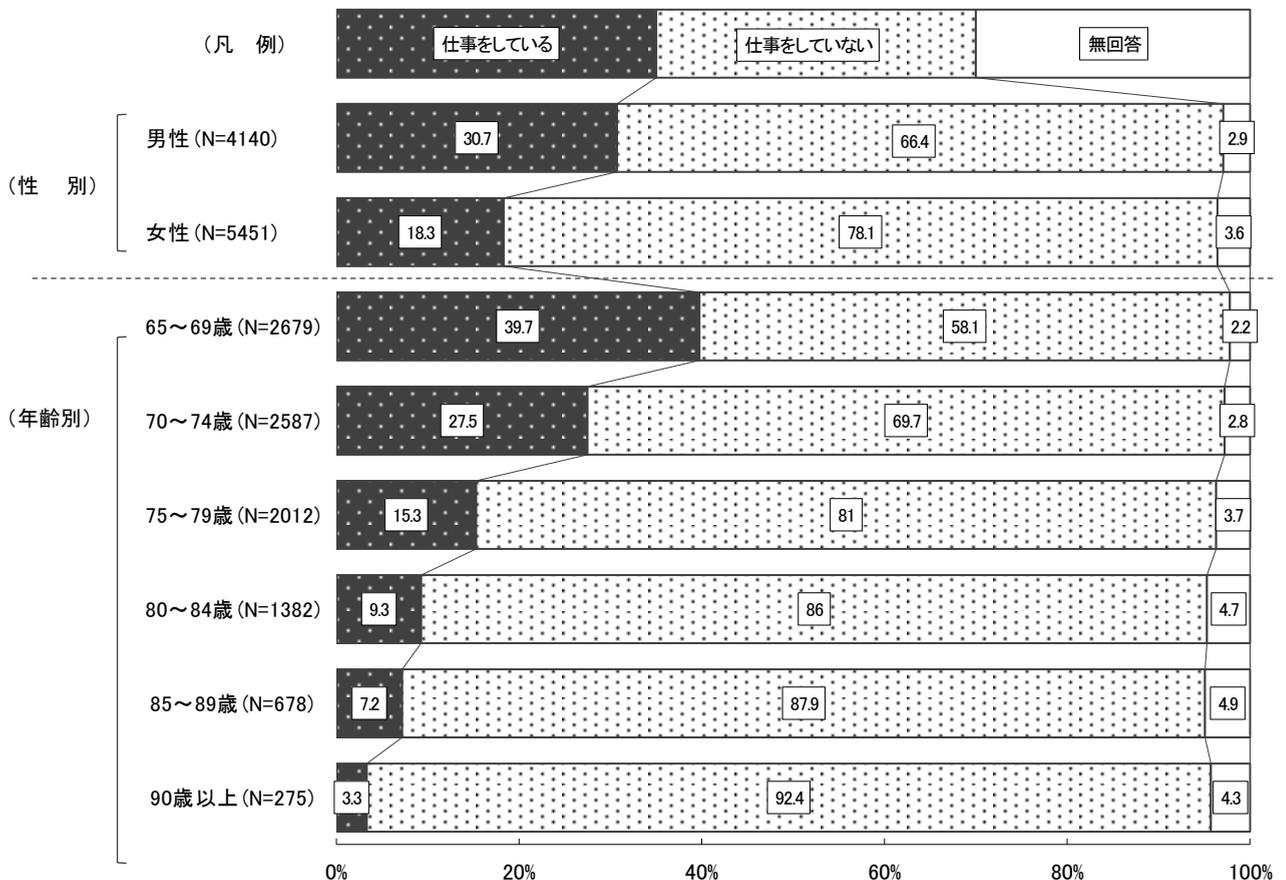
問17 収入のある仕事の有無

- ・収入を得られる仕事の状況については、「仕事をしている」は23.1%、「仕事をしていない」は71.6%となっている。
- ・前回調査と比較すると、「仕事をしている」は2.2ポイント高く、「仕事をしていない」は5.5ポイント低くなっている。



- ・性別でみると、男性の方が「仕事をしたい(続けたい)」という意向が女性よりも多い。
- ・年齢別では、高齢になるにつれて「仕事をしている」は減少している。

【図17-1-a 就労状況(性別・年齢別)】

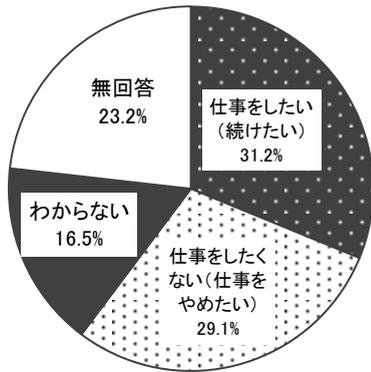


(4) 就労、地域生活の状況、いきがい

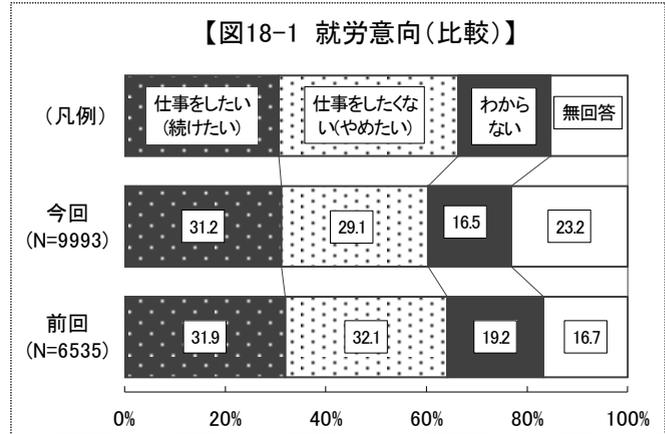
問18 今後仕事をしたい(続けたい)かの意向

・就労意向については、「仕事をしたい(続けたい)」は31.2%と最も多く、「仕事をしたくない(仕事をやめたい)」は29.1%となっている。
 ・前回調査と比較すると、「仕事をしたくない(仕事をやめたい)」は3.0ポイント低くなっているが、概ね前回と同様の傾向となっている。

【図18 就労意向】 (N=9993)

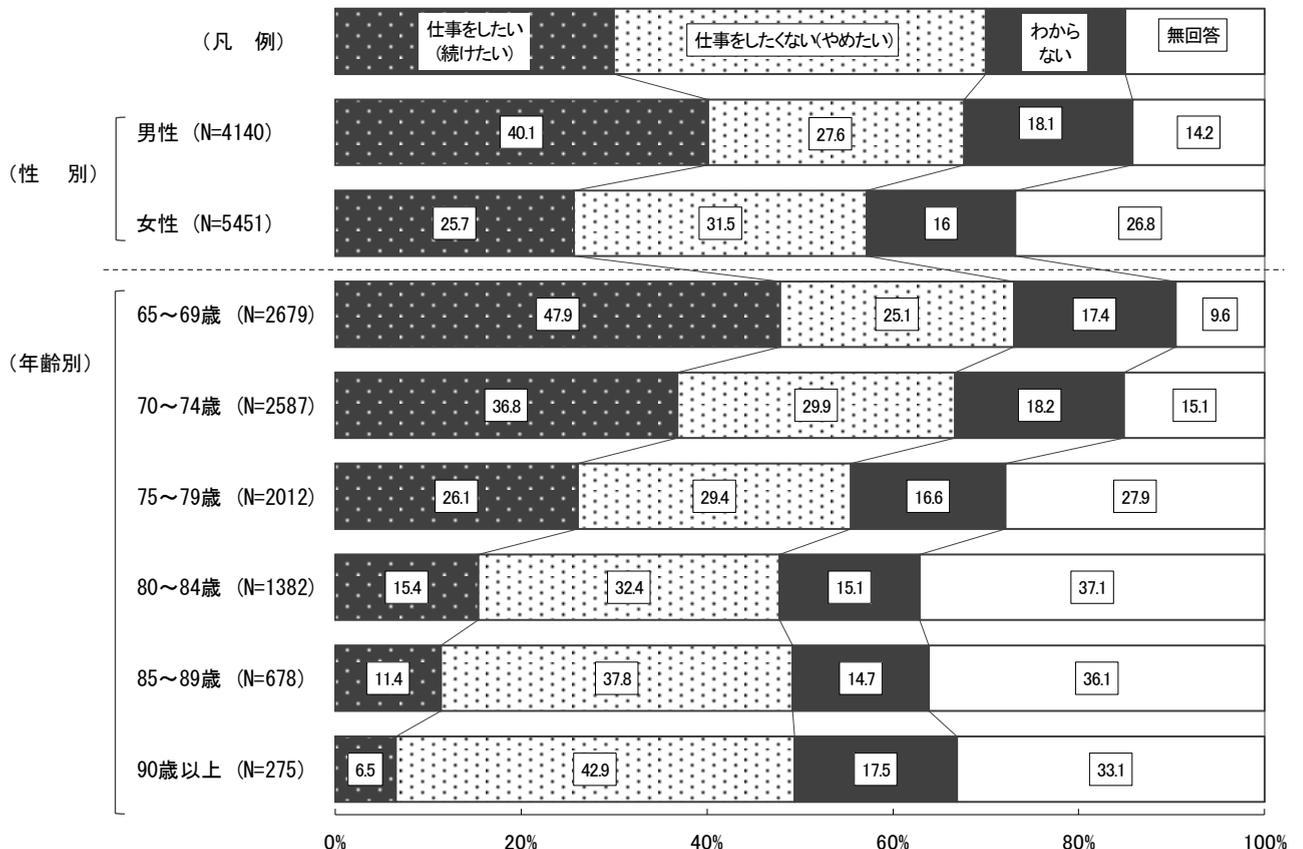


【図18-1 就労意向(比較)】



・性別でみると、男性は「仕事をしたい(続けたい)」が4割を超えており、女性よりも多くなっている。
 ・年齢別では、「仕事をしたい(続けたい)」が65~69歳は半数近くを占めているが、高齢になるにつれて「仕事をしたくない(やめたい)」が増加し、75~79歳で割合が逆転している。

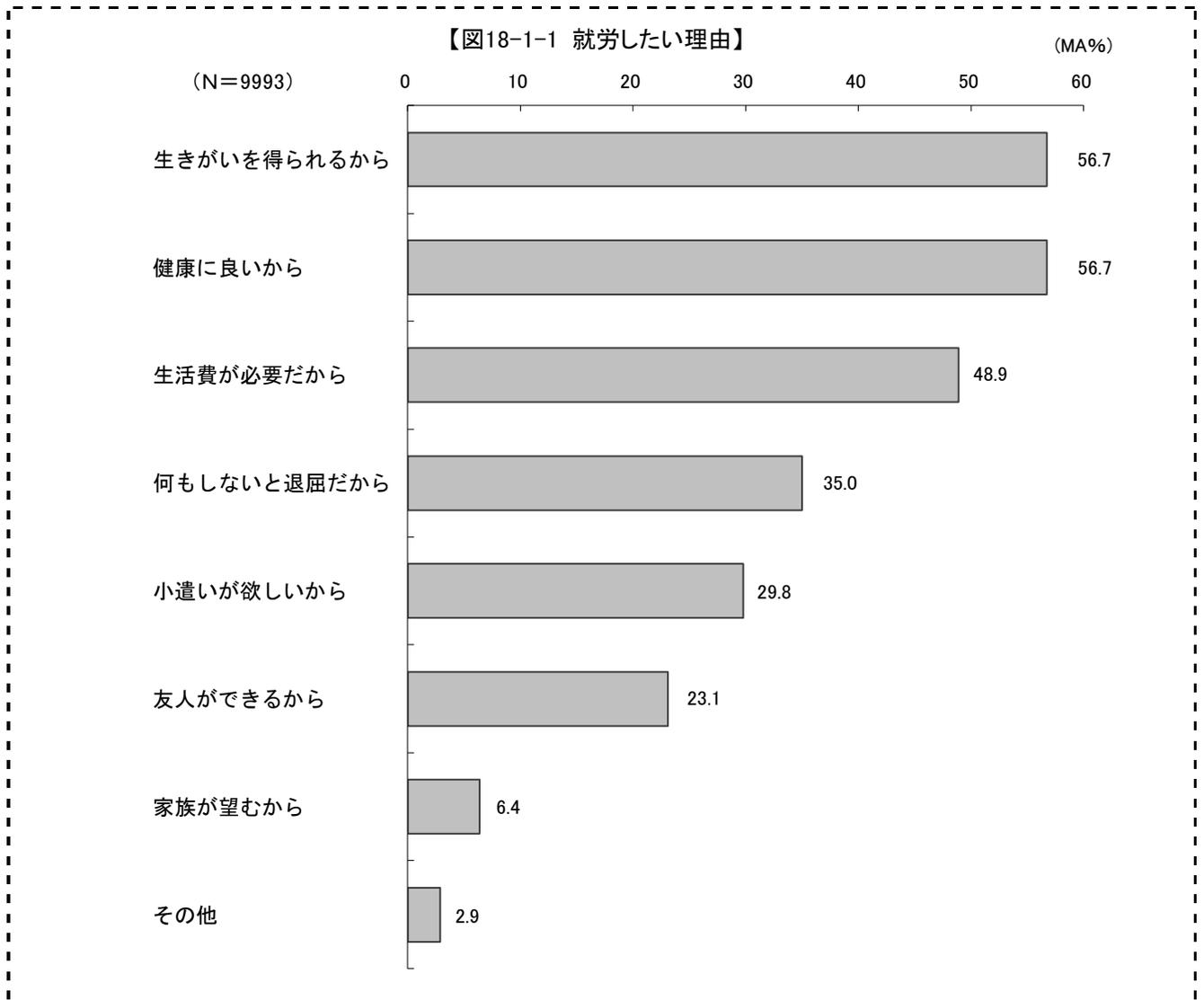
【図18-a 就労意向(性別・年齢別)】



(4) 就労、地域生活の状況、いきがい

問18-1 仕事をしたい(続けたい)理由 (複数回答)

・仕事をしたい(続けたい)と回答した人に就労したい理由をたずねると、「生きがいを得られるから」「健康に良いから」が同率で56.7%と最も高く、次いで「生活費が必要だから」が48.9%となっている。



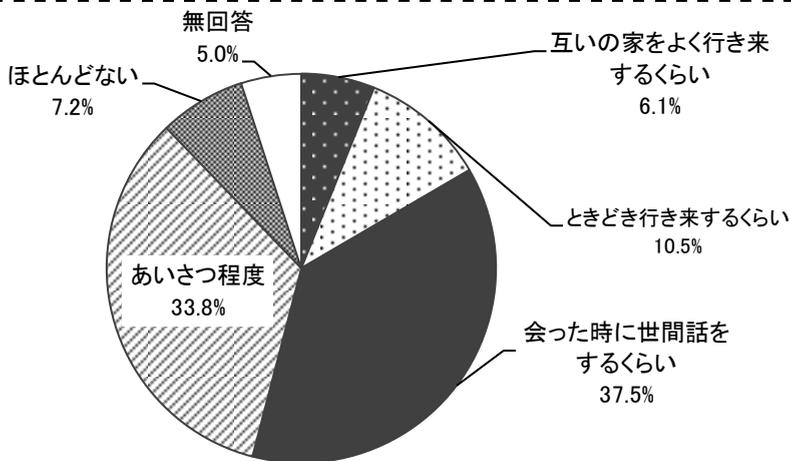
(4) 就労、地域生活の状況、いきがい

問19 近所付き合いの程度

・近所付き合いについては、「会った時に世間話をするくらい」が37.5%と最も多く、次いで「あいさつ程度」が33.8%となっている。

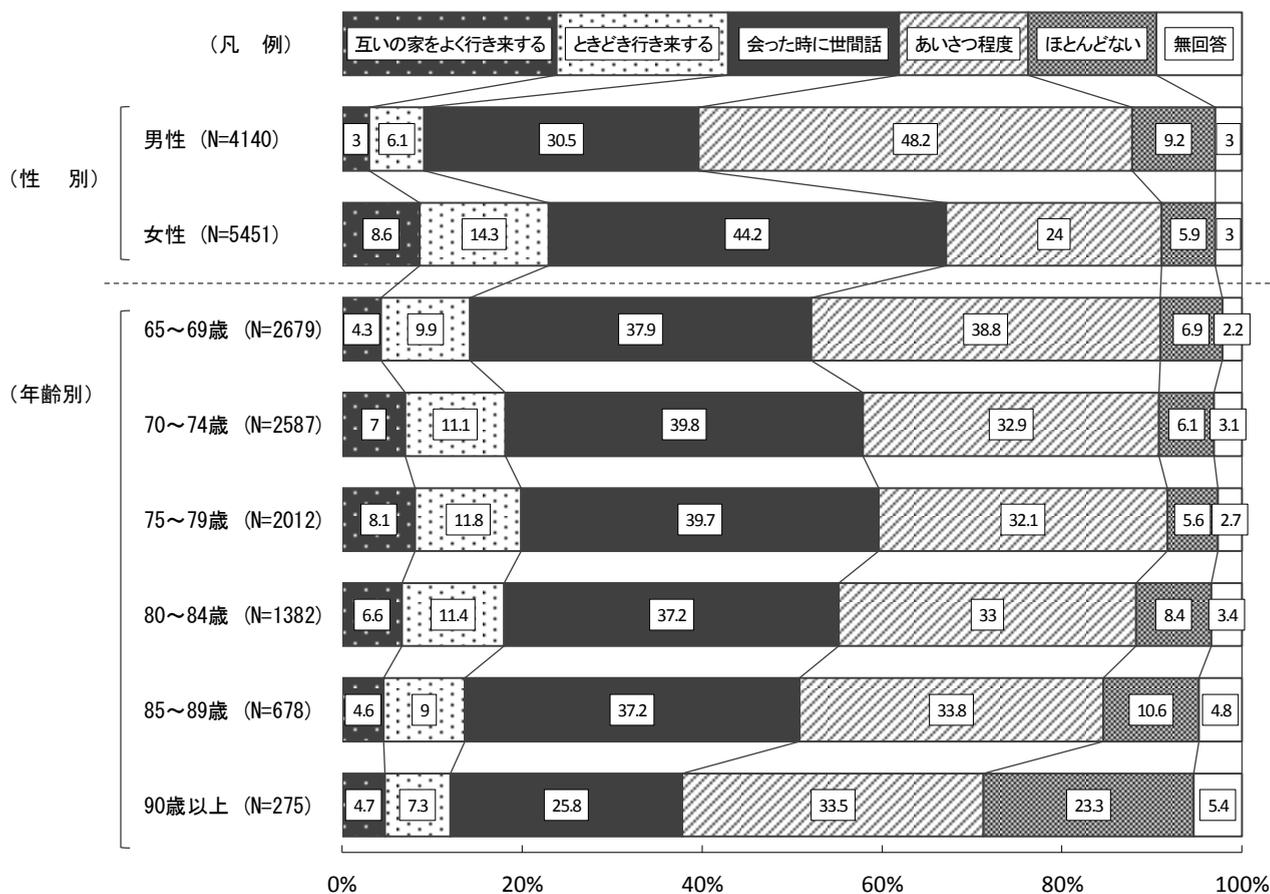
【図19 近所付き合いの状況】

(N=9993)



・性別でみると、「互いの家をよく行き来する」「ときどき行き来する」を合わせた『近所の方と行き来のある方』については、男性は女性の半分以上に留まっている。また、男性は「あいさつ程度」が女性の倍近くとなっている。
 ・年齢別では、『近所の方と行き来のある方』は75～79歳で最も多く19.9%となっている。65～69歳では「あいさつ程度」の回答が最も多い。また、90歳以上では、付き合いの「ほとんどない」方の割合が、他の年齢と比べて多い。

【図19-a 近所付き合いの状況(性別・年齢別)】

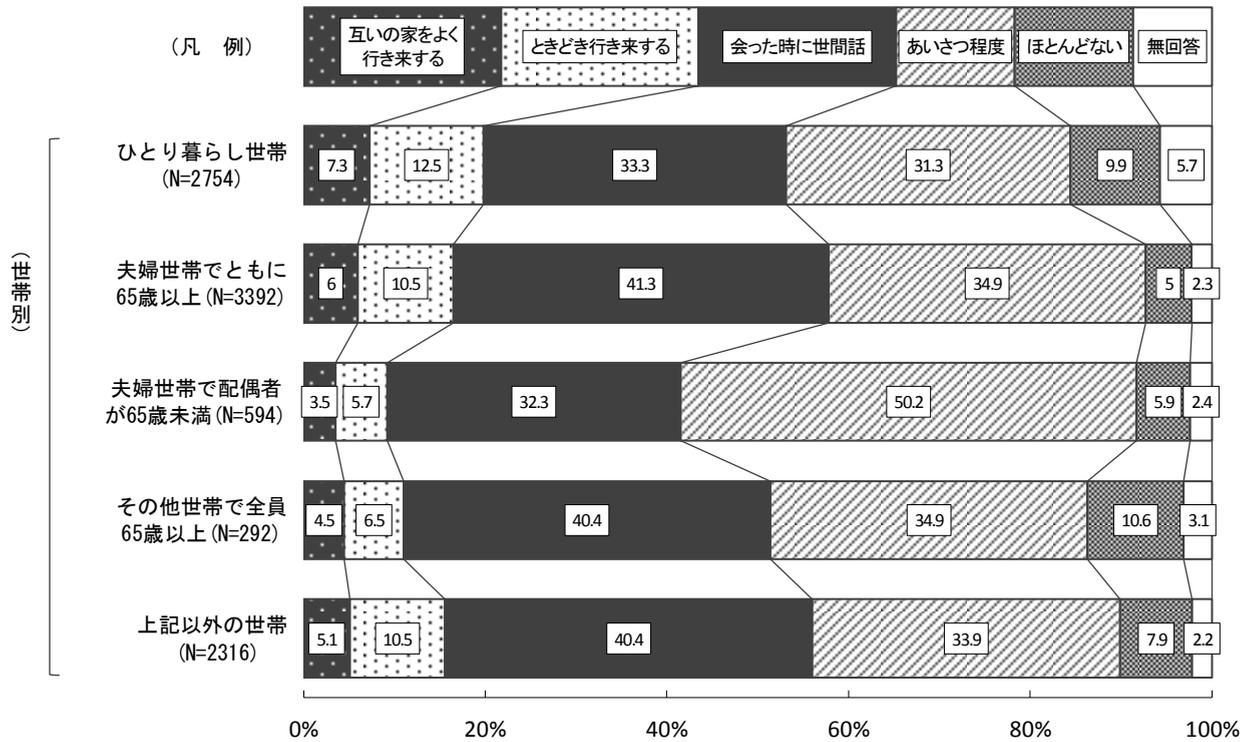


(4) 就労、地域生活の状況、いきがい

問19 近所付き合いの程度 (世帯別)

・世帯別でみると、「互いの家をよく行き来する」「ときどき行き来する」を合わせた『近所の方と行き来のある方』は、ひとり暮らし世帯が最も多く19.8%であり、夫婦のみで配偶者が65歳未満の世帯が最も少なく9.2%となっている。
 ・一方で、ひとり暮らし世帯は付き合いの「ほとんどない」が9.9%となっており、高い割合となっている。

【図19-b 近所付き合いの状況(世帯別)】



(4) 就労、地域生活の状況、いきがい

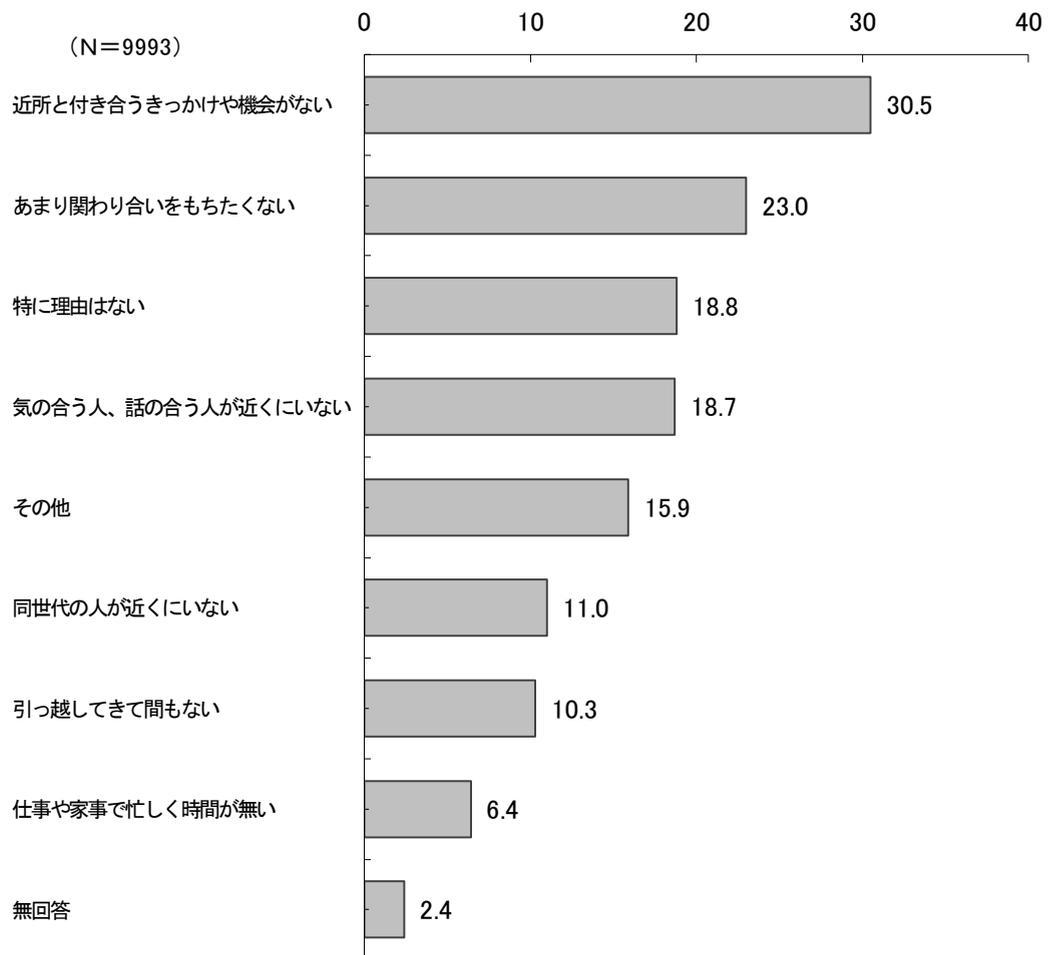
問19-1 近所付き合いがほとんどない理由 (複数回答)

・近所付き合いがほとんどないと回答した人に、付き合いがほとんどない理由をたずねると、「近所と付き合いきっかけや機会がない」が30.5%、「あまり関わり合いをもちたくない」が23.0%となっており、「特に理由はない」と「気の合う人、話の合う人が近くにいない」がほぼ同数となっている。

【図19-1 近所付き合いがほとんどない理由】

(MA%)

(N=9993)

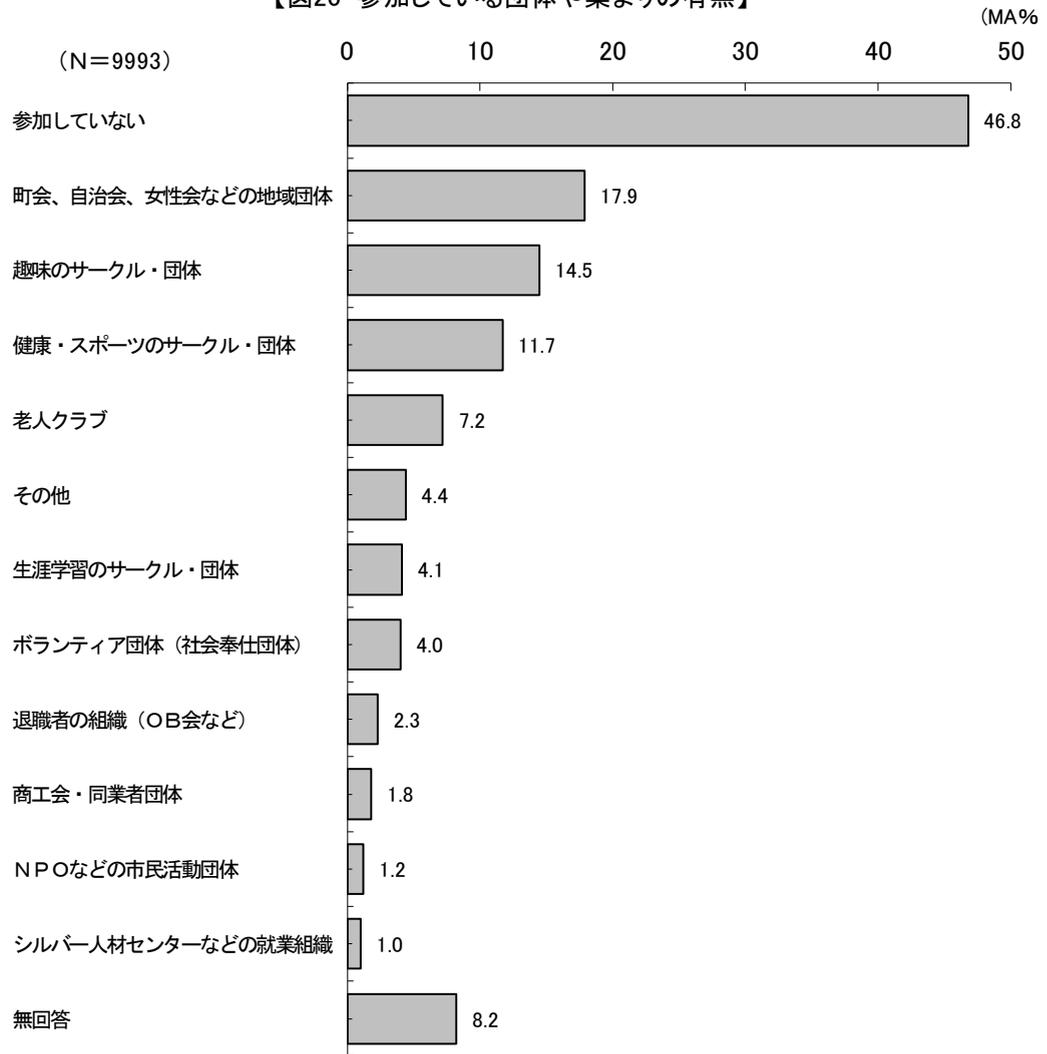


(4) 就労、地域生活の状況、いきがい

問20 継続的に参加している団体や集まり (複数回答)

- ・参加している団体や集まりの有無については、「参加していない」が46.8%と最も多い。
- ・参加しているとの回答の中では、「町会、自治会、女性会などの地域団体」が17.9%と最も多く、次いで「趣味のサークル・団体」、「健康・スポーツのサークル・団体」となっている。

【図20 参加している団体や集まりの有無】

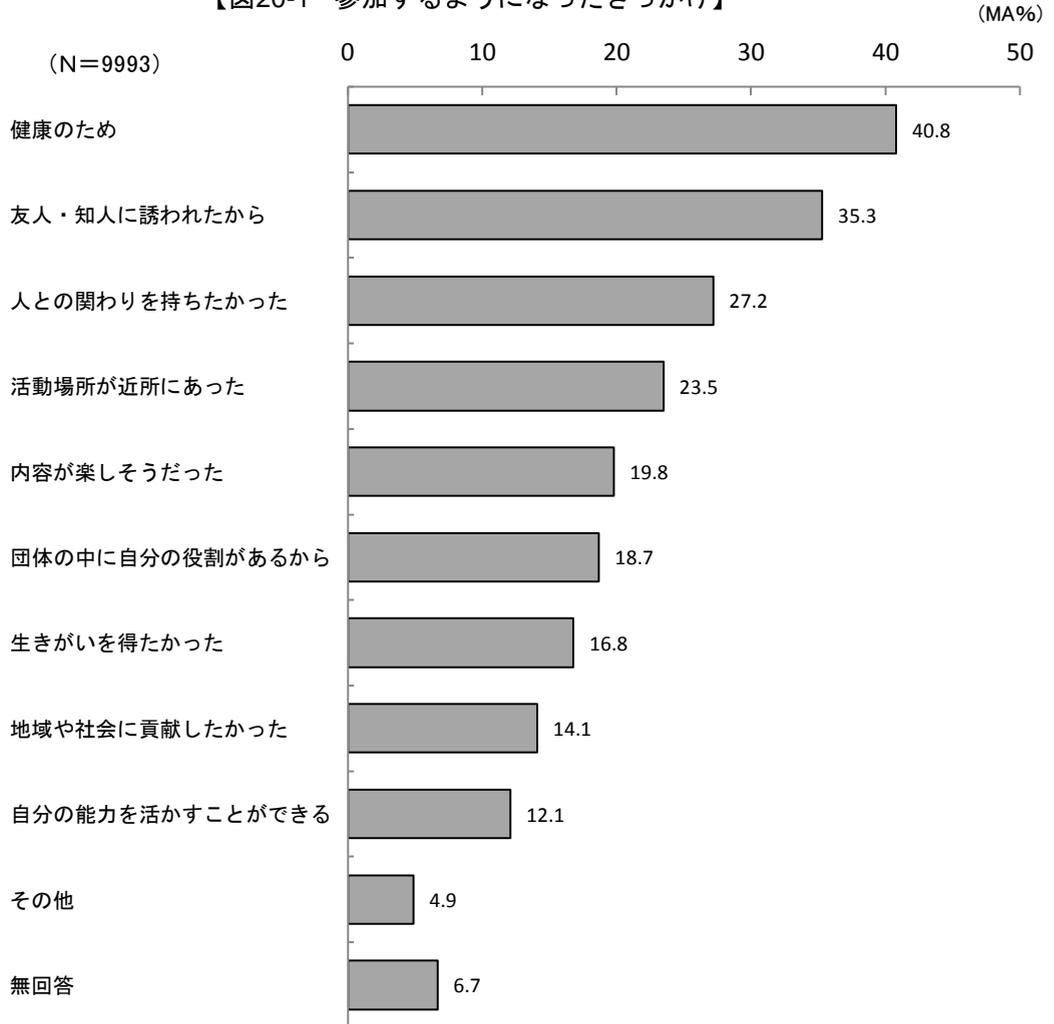


(4) 就労、地域生活の状況、いきがい

問20-1 (継続的に団体等に参加している方) 参加のきっかけ (複数回答)

・参加していると回答した人に、参加するきっかけをたずねると、「健康のため」が40.8%と最も多く、次いで「友人・知人に誘われたから」が35.3%、「人との関わりを持ちたかった」が27.2%となっている。

【図20-1 参加するようになったきっかけ】

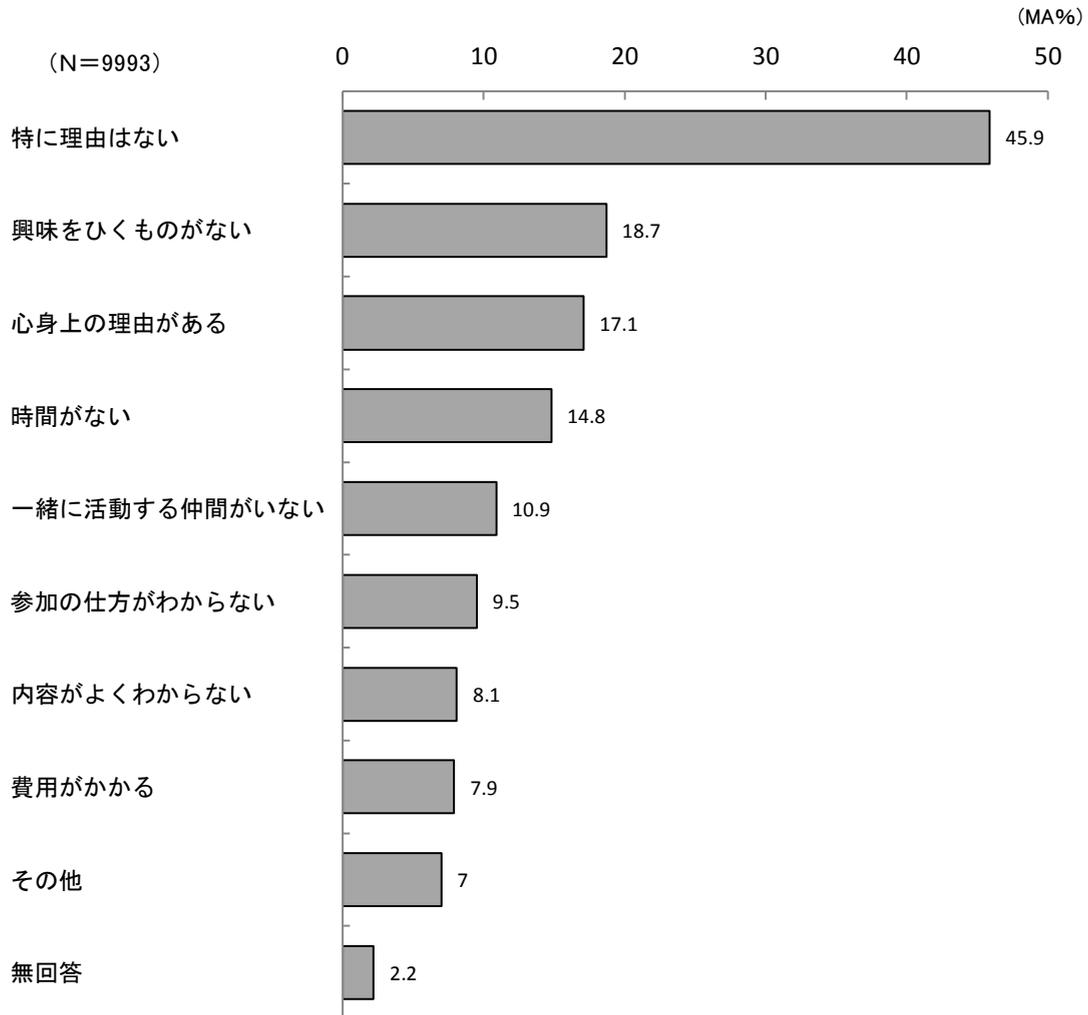


(4) 就労、地域生活の状況、いきがい

問20-2 (継続的に団体等に参加していない方) 参加していない理由 (複数回答)

・参加していないと回答した人に、参加していない理由をたずねると、「特に理由はない」が45.9%と最も多い。次いで、「興味をひくものがない」、「心身上の理由がある」との順となっている。

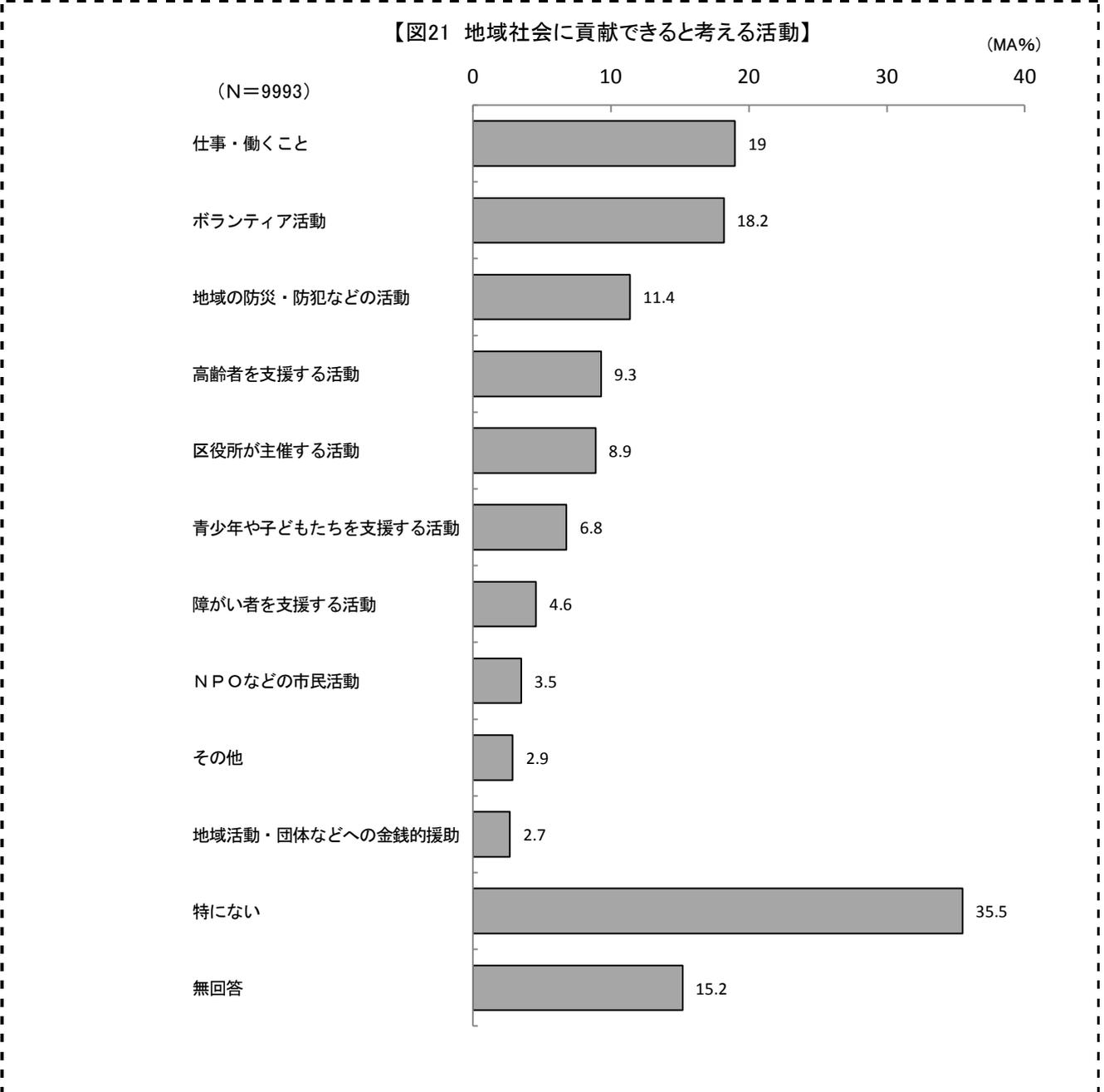
【図20-2 参加していない理由】



(4) 就労、地域生活の状況、いきがい

問21 地域社会に貢献できると考える活動 (複数回答)

・自分が地域社会に貢献できると考える活動について尋ねると、「仕事・働くこと」が19.0%で最も多く、次いで「ボランティア活動」が18.2%、「地域の防災・防犯などの活動」が11.4%となっている。
・他方、「特にない」が35.5%となっている。

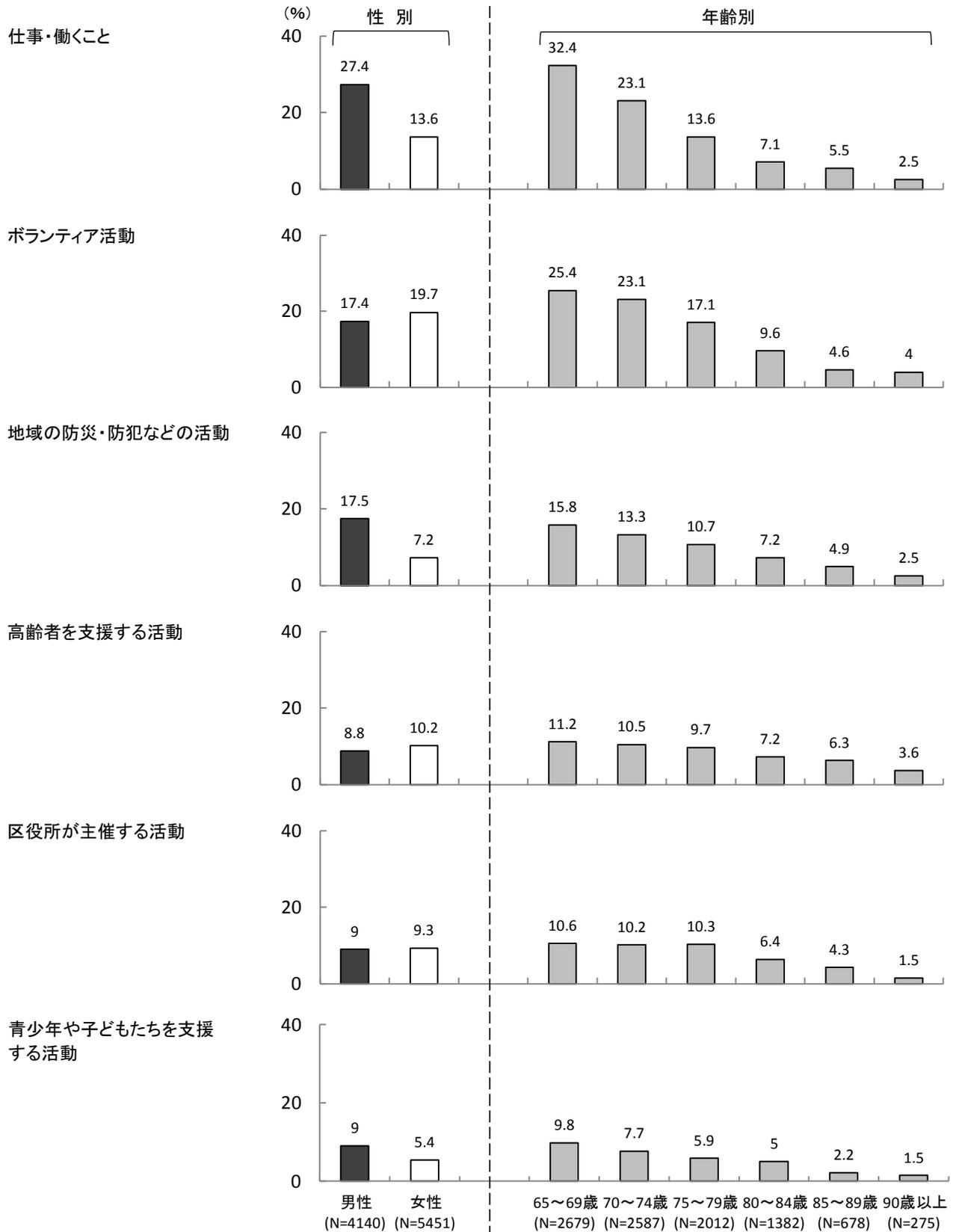


(4) 就労、地域生活の状況、いきがい

問21 地域社会に貢献できると考える活動 (性別・年齢別)

・性別で見ると、男性は「仕事・働くこと」が27.4%で最も多い。女性は「ボランティア活動」が最も多い回答となっている。また、男性は「地域の防災・防犯などの活動」が、女性に比べて高い割合となっている。
 ・年齢別では、「仕事・働くこと」と「ボランティア活動」が65～74歳までで高い割合となっている。80歳以上ではすべて10%を下回っている。

【図21-a 地域社会に貢献できると考える活動(性別・年齢別)】

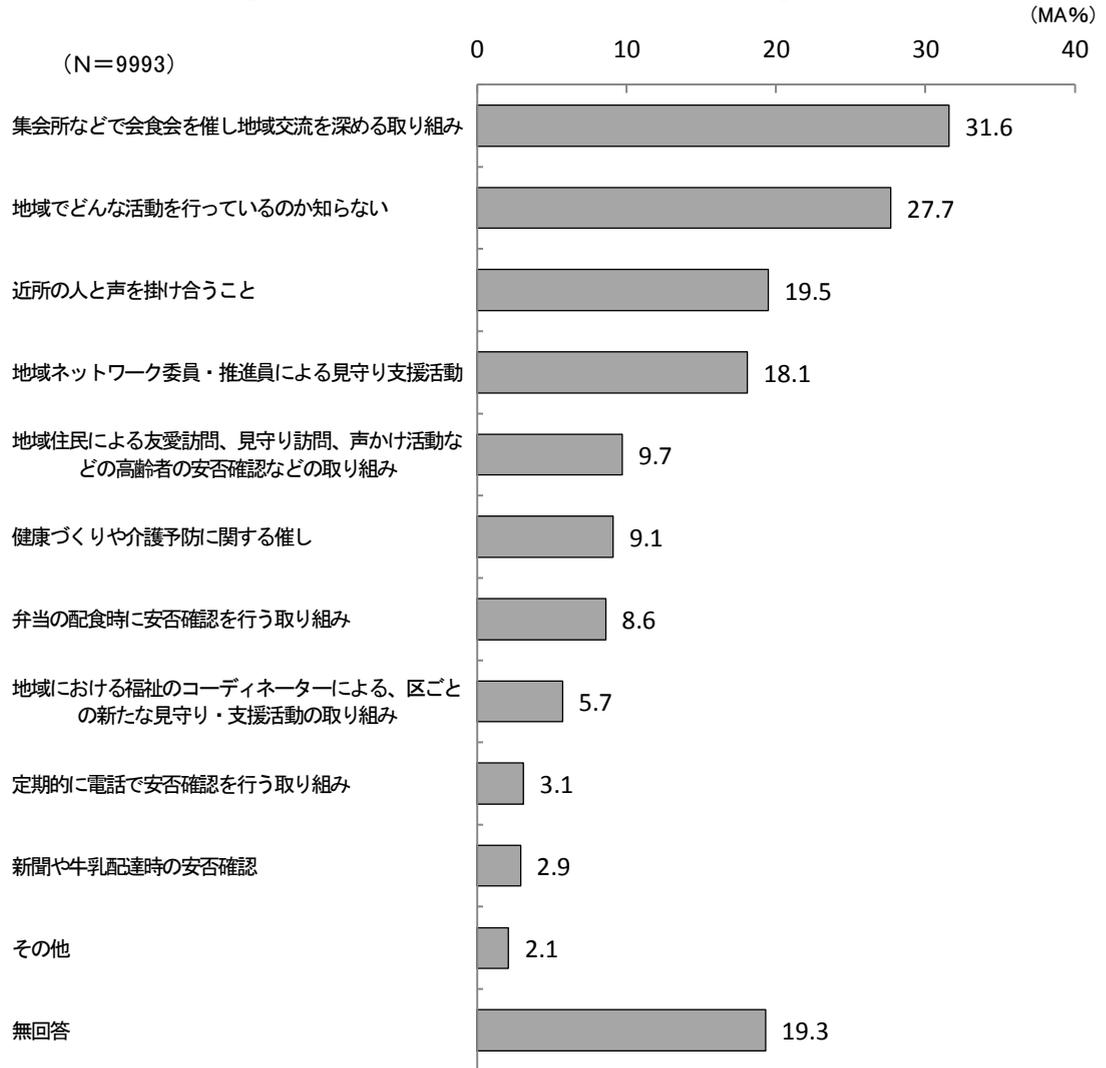


(4) 就労、地域生活の状況、いきがい

問22 地域で行われている見守りに関する取り組み (複数回答)

・地域で行われている見守りに関する取り組みについての認知度は、「集会所などで会食会を催し地域交流を深める取り組み」が31.6%と最も多い一方で「地域でどんな活動を行っているのか知らない」が27.7%で2番目に多くなっている。
・次いで、「近所の方と声を掛け合うこと」「地域ネットワーク委員・推進員による見守り支援活動」「地域住民による安否確認の取組み」であり、最も多い「集会所等での地域交流の取組み」とあわせて、地域で行われている活動が上位にあげられている。

【図22 地域で行われている見守りに関する取り組み】

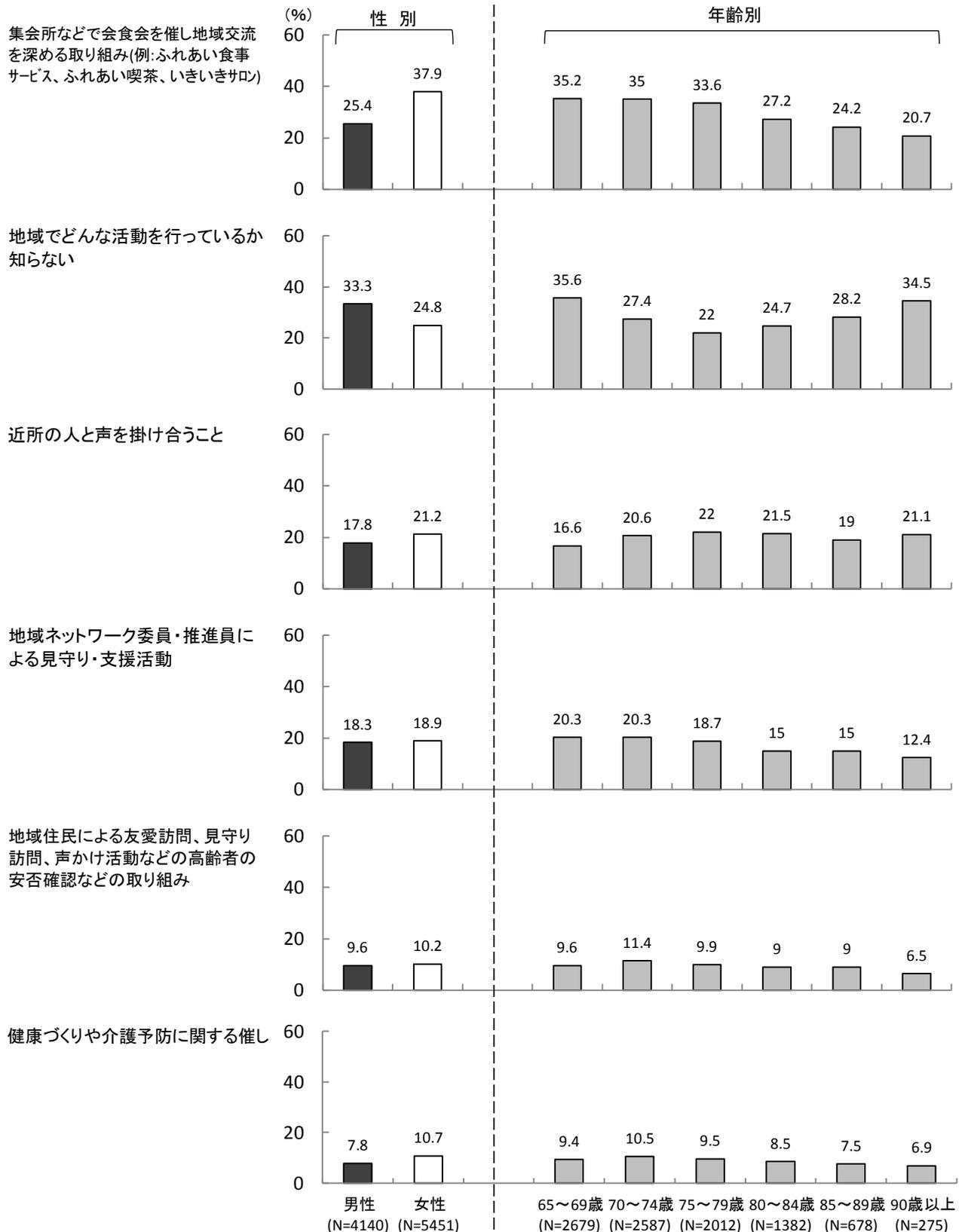


(4) 就労、地域生活の状況、いきがい

問22 地域で行われている見守りに関する取り組み (性別・年齢別)

・性別で見ると、女性では「集会所などで会食会を催し地域交流を深める取り組み」についてが37.9%で最も多いが、男性は「地域でどんな活動を行っているか知らない」が33.3%で最も多い。
 ・年齢別では、「集会所などで会食会を催し地域交流を深める取り組み」が70～84歳まででは最も多いが、65～69歳、90歳以上では、「地域でどんな活動を行っているか知らない」が最も多い回答となっている。

【図22-a 地域で行われている見守りに関する取り組み(性別・年齢別)】



(4) 就労、地域生活の状況、いきがい

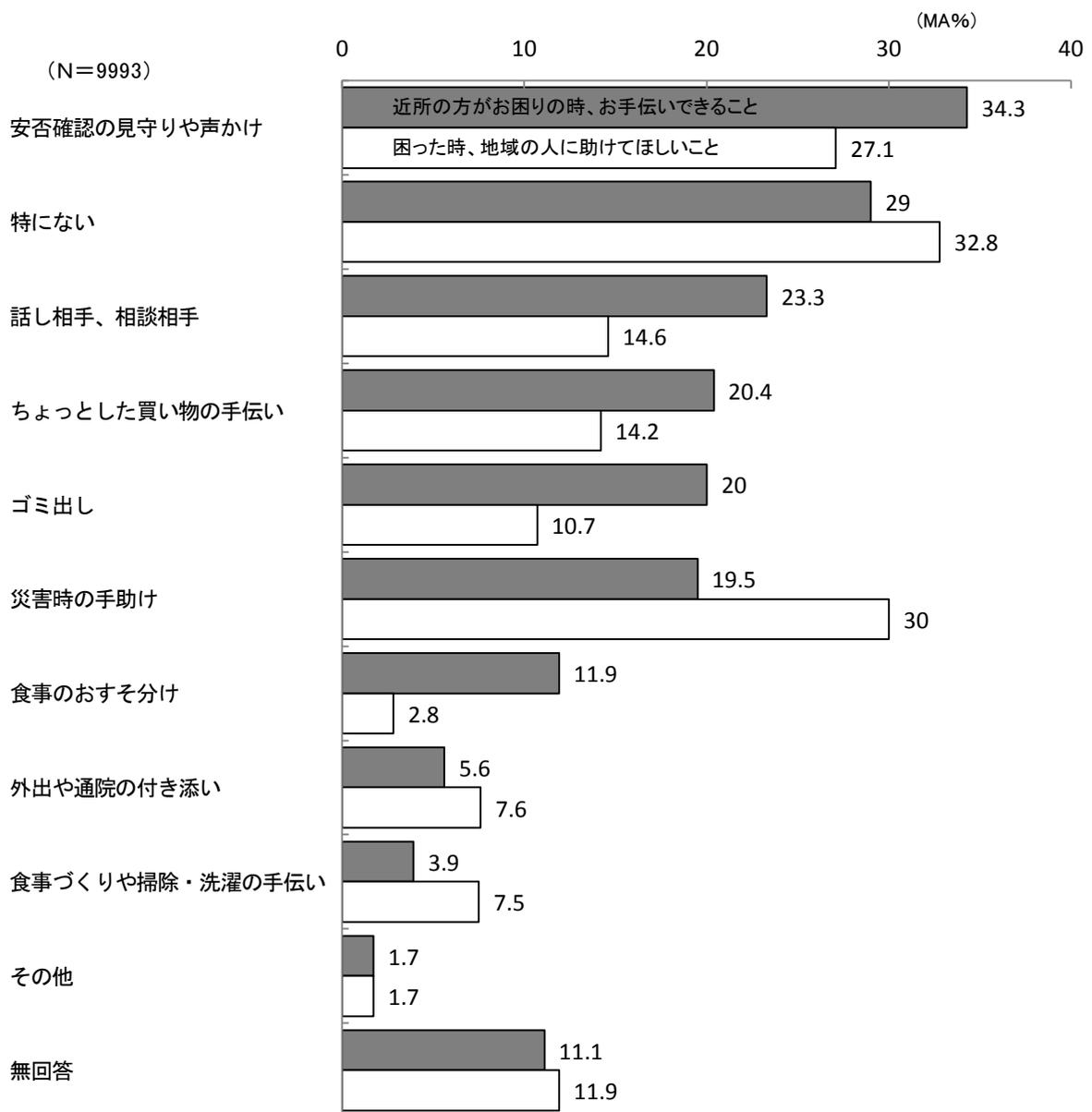
問23 近所の方がお困りの時、お手伝いできること

問24 困った時、地域の人に助けてもらいたいこと

(複数回答)

- ・「近所の方がお困りの時、お手伝いできること」については、「安否確認の見守りや声かけ」が34.3%で最も多く、次いで「特にない」、「話し相手、相談相手」の順となっている。
- ・「困った時、地域の人に助けてもらいたいこと」については、「特にない」が32.8%で最も多く、次いで、「災害時の手助け」、「安否確認の見守りや声かけ」の順となっている。
- ・「手伝えること」と「助けてもらいたいこと」を比較すると、「安否確認の見守りや声かけ」については、「手伝えること」の回答としては34.3%と高いが、「助けてもらいたいこと」の回答としては27.1%で3番目の回答となり、7.2ポイントの差が見られる。
- ・「災害時の手助け」については、「助けてもらいたいこと」の回答としては30%と多い一方で、「手伝えること」の問いとしては、19.5%であり、10.5ポイントの差がある。

【図23 「近所の方がお困りの時、お手伝いできること」・「困った時、地域の人に助けてもらいたいこと」】

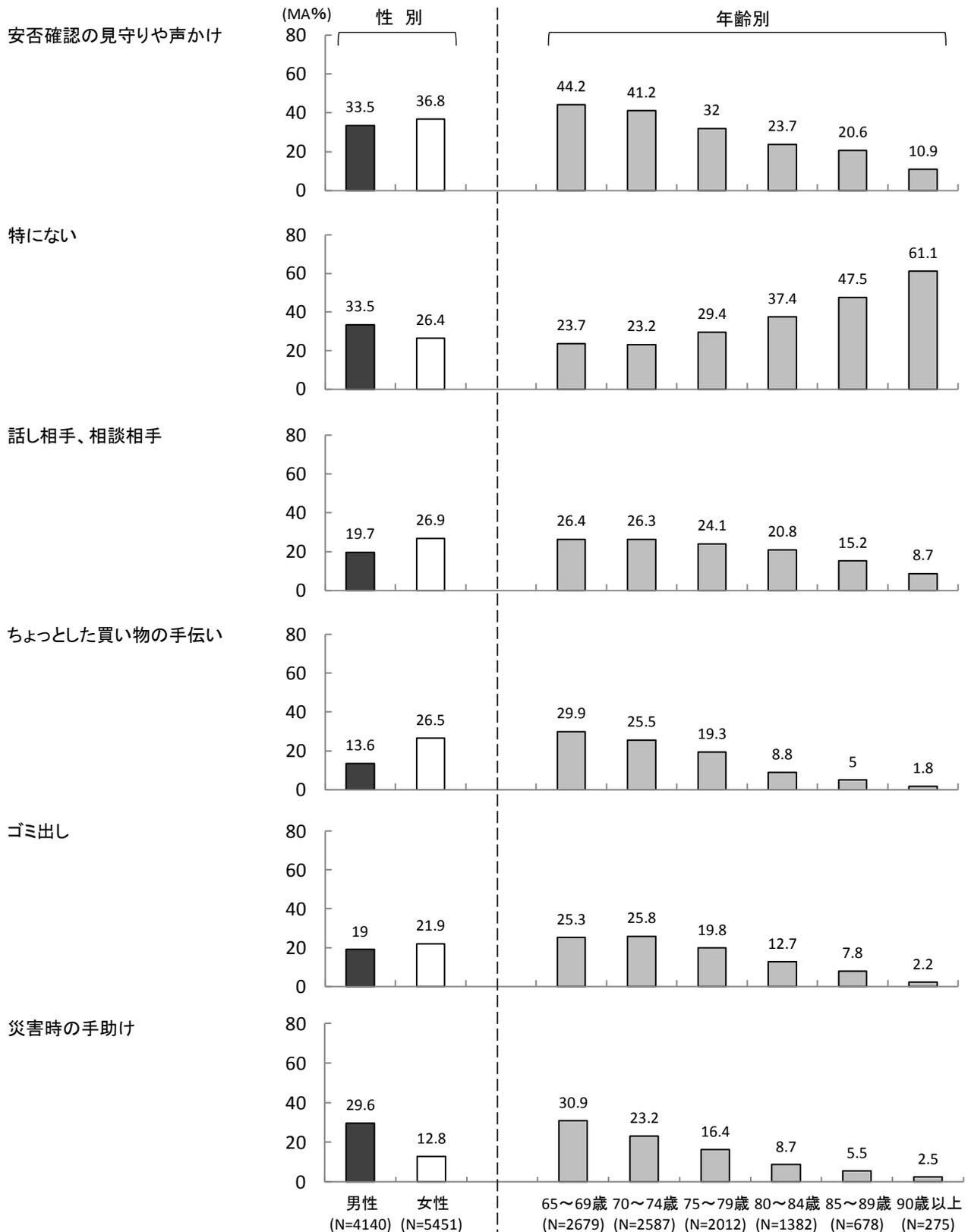


(4) 就労、地域生活の状況、いきがい

問23 近所の方がお困りの時、お手伝いできること (性別・年齢別)

・性別でみると、男性は「安否確認の見守りや声かけ」が33.5%で最も多い回答となっているが、「特にない」も同値で高くなっている。次いで「災害時の手助け」が29.6%となっている。女性は、「安否確認の見守りや声かけ」が最も多く、「災害時の手助け」については男性に比べて少ない。
 ・年齢別では、「安否確認の見守りや声かけ」は65歳～79歳までは相対的に多いが、75歳を境に「特にない」が多くなるなど、75歳以上では、全般において手伝えることの回答が少なくなっている。

【図23-a 近所の方がお困りの時、お手伝いできること(性別・年齢別)】

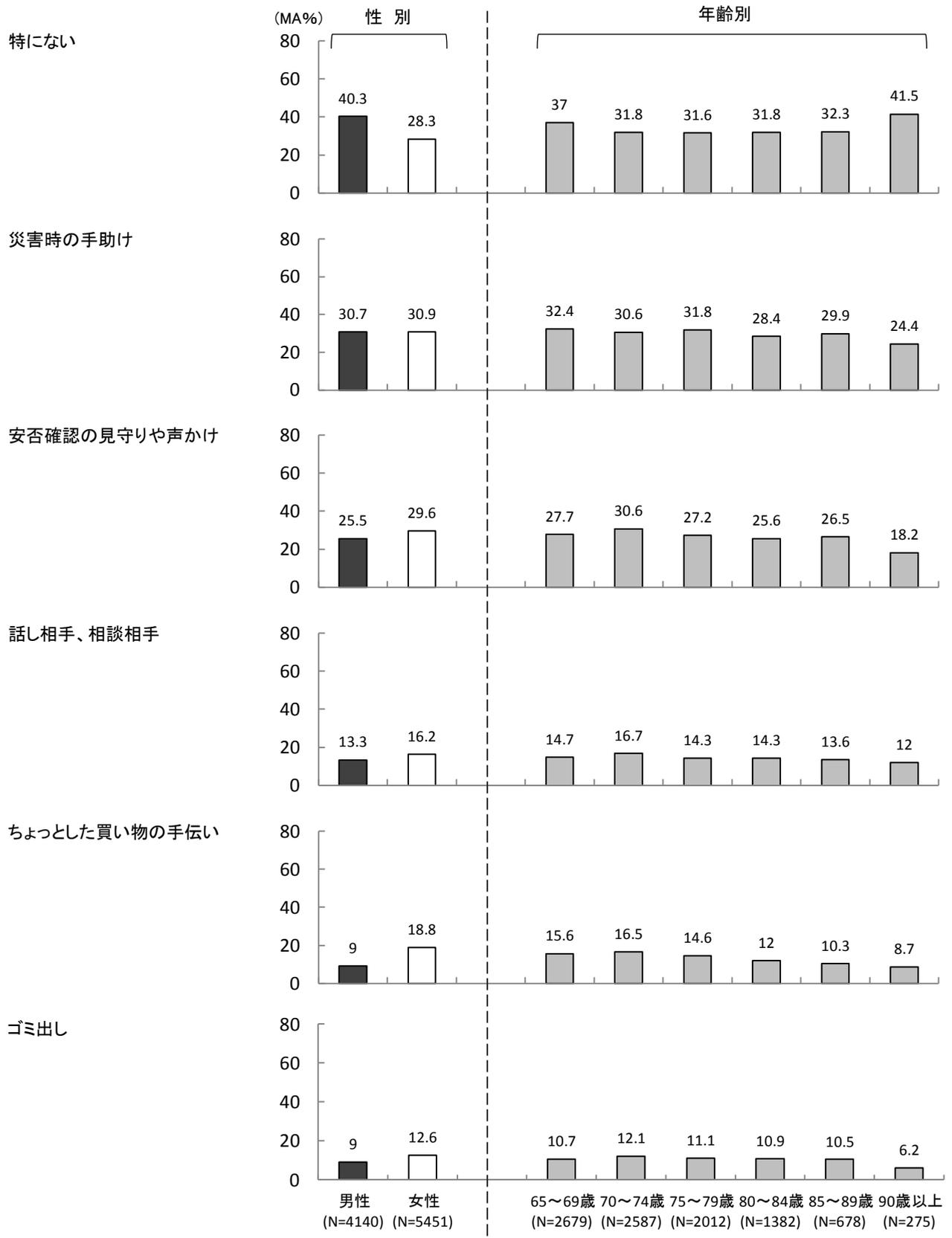


(4) 就労、地域生活の状況、いきがい

問24 困った時、地域の人に助けてもらいたいこと (性別・年齢別)

・性別で見ると、男性で「特にない」が40.3%で最も多い。女性では「災害時の手助け」が最も多い回答となっている。
 ・年齢別では、90歳以上で、「特にない」の割合が高くなっているが、その他の項目では、年齢差による大きな差はみられない。

【図24-a 困った時、地域の人に助けてもらいたいこと(性別・年齢別)】

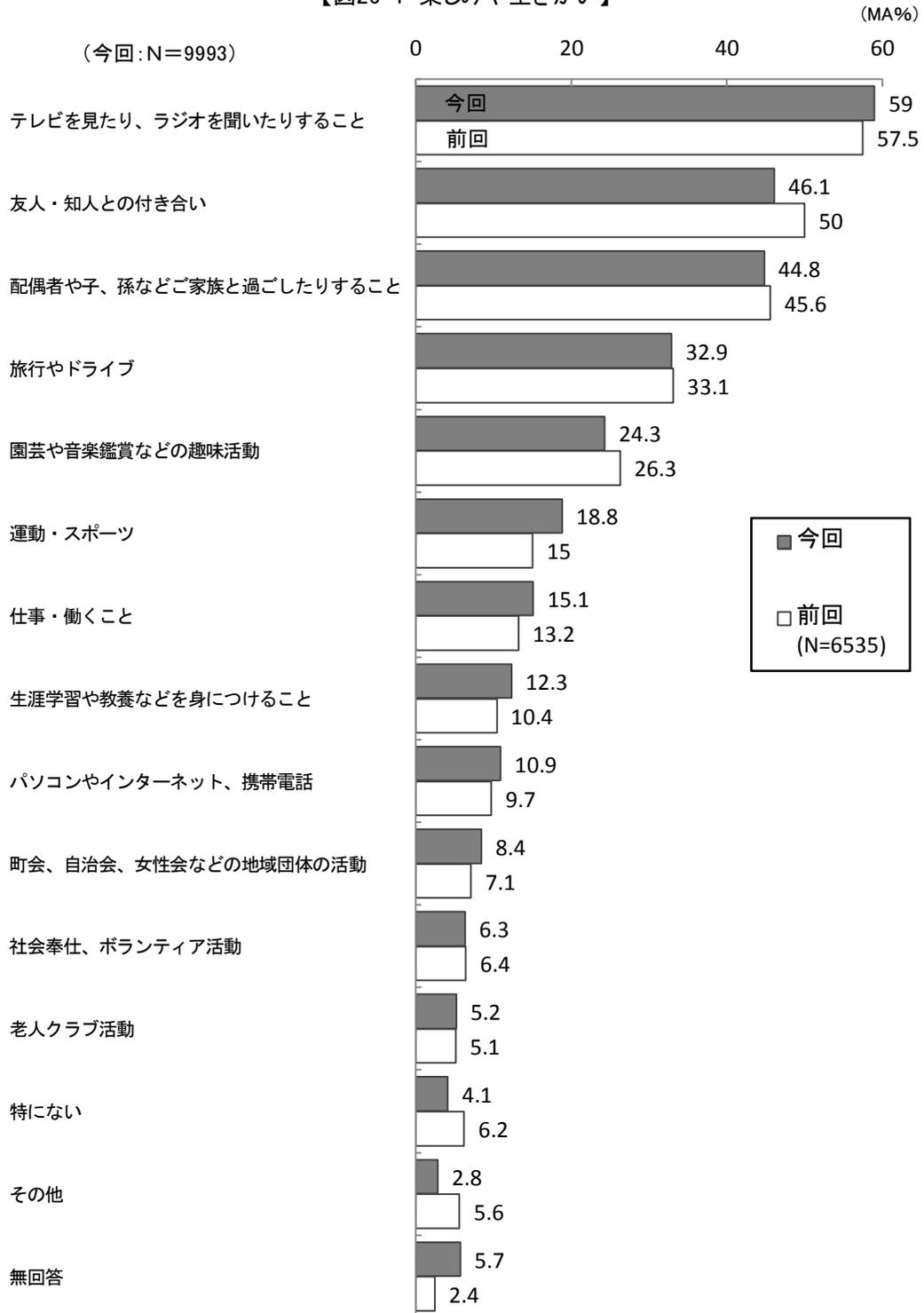


(4) 就労、地域生活の状況、いきがい

問25 楽しみや生きがい (複数回答)

・楽しみや生きがいについては、「テレビを見たり、ラジオを聞いたりすること」が59.0%と最も高くおよそ6割の方が選択している。次いで「友人との付き合い」が46.1%、「配偶者や子、孫などご家族と過ごしたりすること」が44.8%となっている。
・前回調査と比較すると、各割合に多少の差はあるものの、「テレビを見たり、ラジオを聞いたりすること」が最も多く、次いで「友人・知人との付き合い」、「配偶者や子、孫などご家族と過ごしたりすること」の順であり、概ね同様の傾向となっている。

【図25-1 楽しみや生きがい】

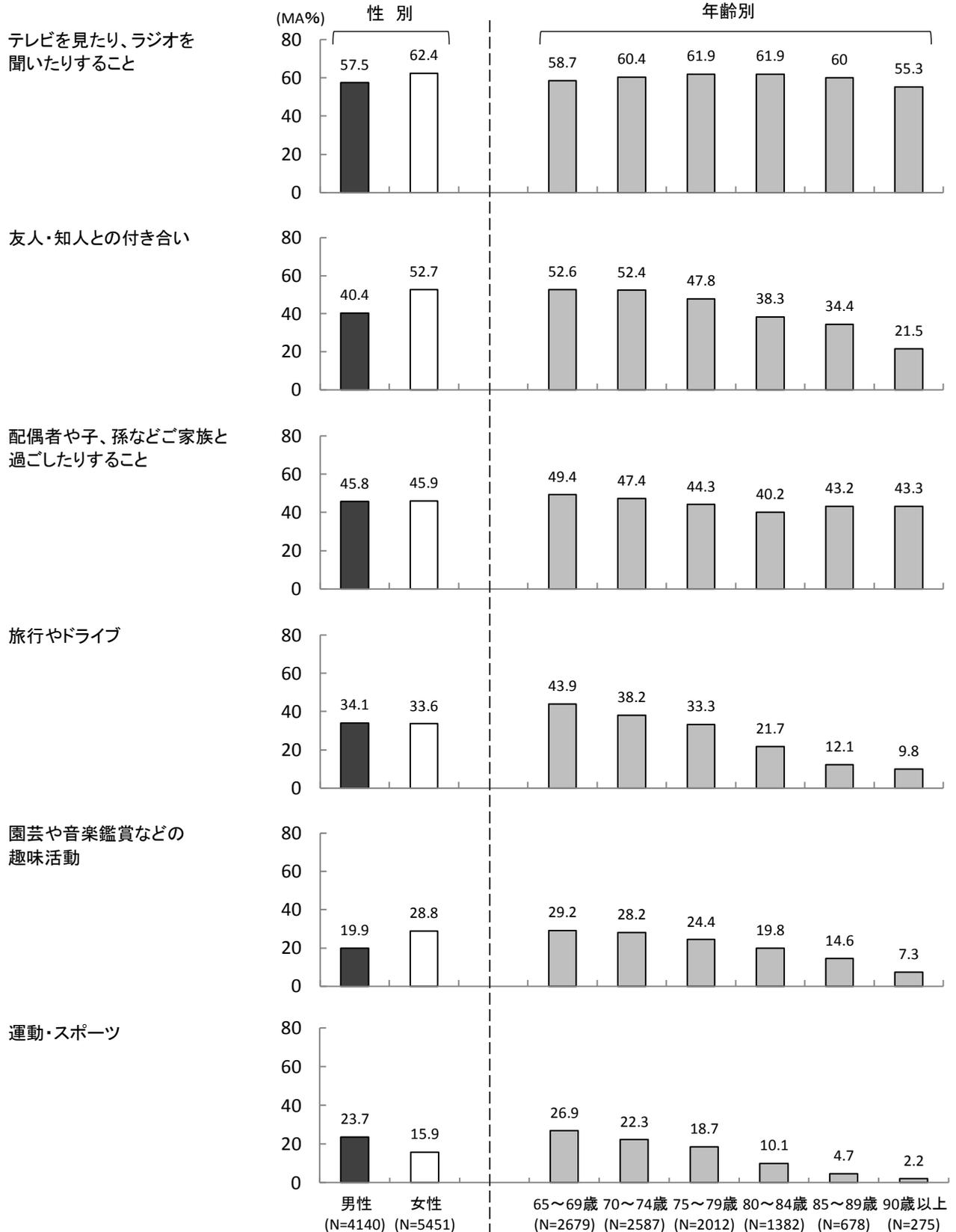


(4) 就労、地域生活の状況、いきがい

問25 楽しみや生きがい (性別・年齢別)

・性別で見ると、「テレビを見たり、ラジオを聞いたりすること」は男女ともに最も高い。「友人・知人との付き合い」は女性の方が高く、男性とは12.3ポイントの差がある。
 ・年齢別では、「テレビを見たり、ラジオを聞いたりすること」と「配偶者や子、孫などご家族と過ごしたりすること」は年齢による差は少ないが、その他の項目については高齢になるにつれて低下する傾向が見られる。

【図25-a 楽しみや生きがい(性別・年齢別)】

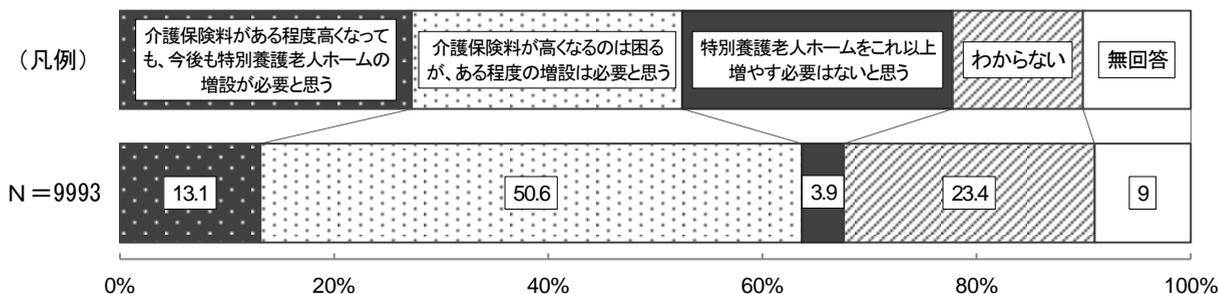


(5) 将来の介護や援護に対する考え

問26 特別養護老人ホームの整備に対する考え

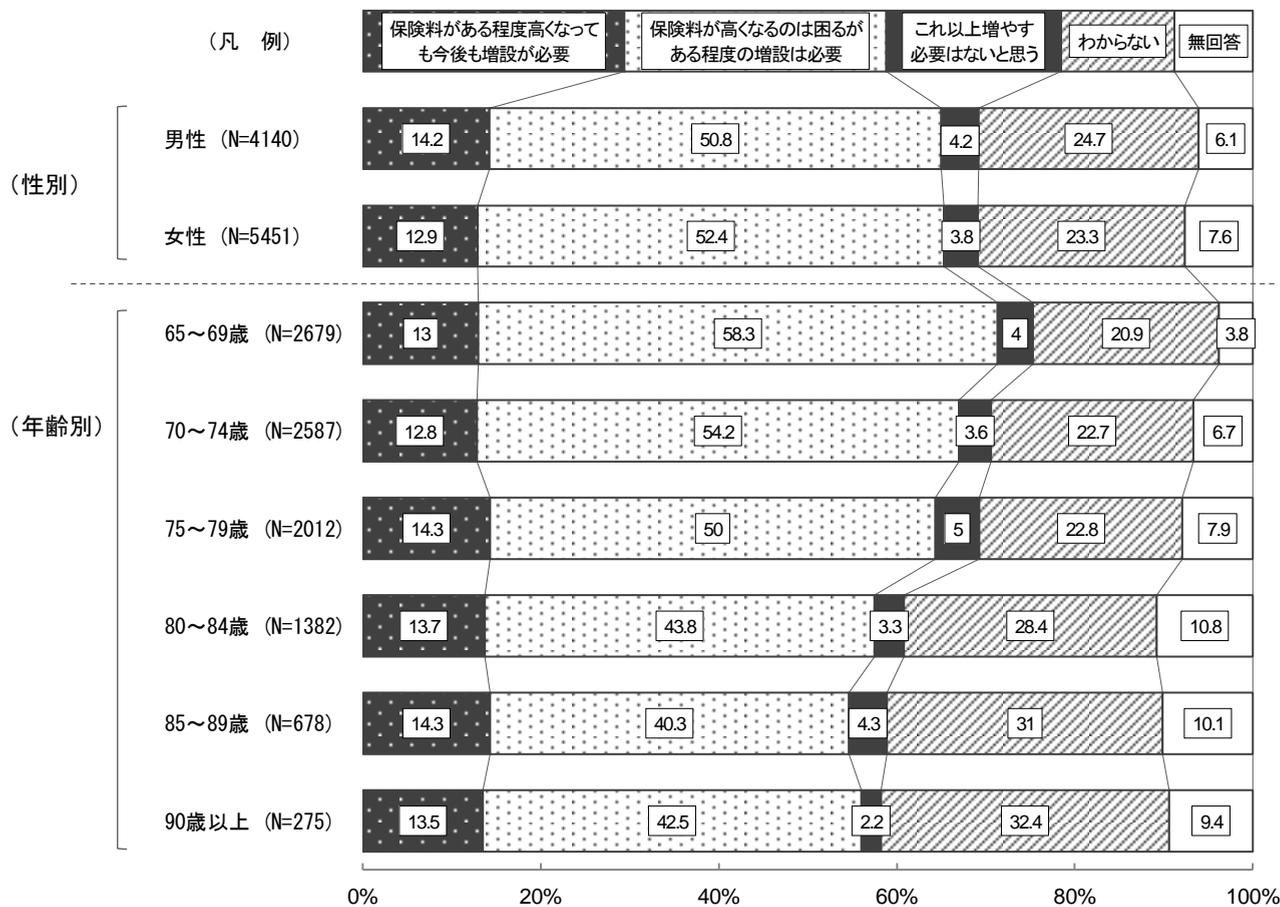
・特別養護老人ホームの整備にかかる考えについては、「介護保険料が高くなるのは困るが、ある程度の増設は必要と思う」が50.6%と最も多い。「介護保険料がある程度高くなっても、今後も特別養護老人ホームの増設が必要と思う」も含めると、増設の必要性を感じている人は63.7%であり、増設の必要性を感じない人は3.9%となっている。

【図26 特別養護老人ホームの整備に対する考え】



・性別では、増設についての考え方に大きな差はみられない。
 ・年齢別で見ると、増設の必要性を感じる人は「65～79歳」までがやや多く、80歳以上では少なくなる傾向がみられる。

【図26-a 特別養護老人ホームの整備に対する考え(性別・年齢別)】

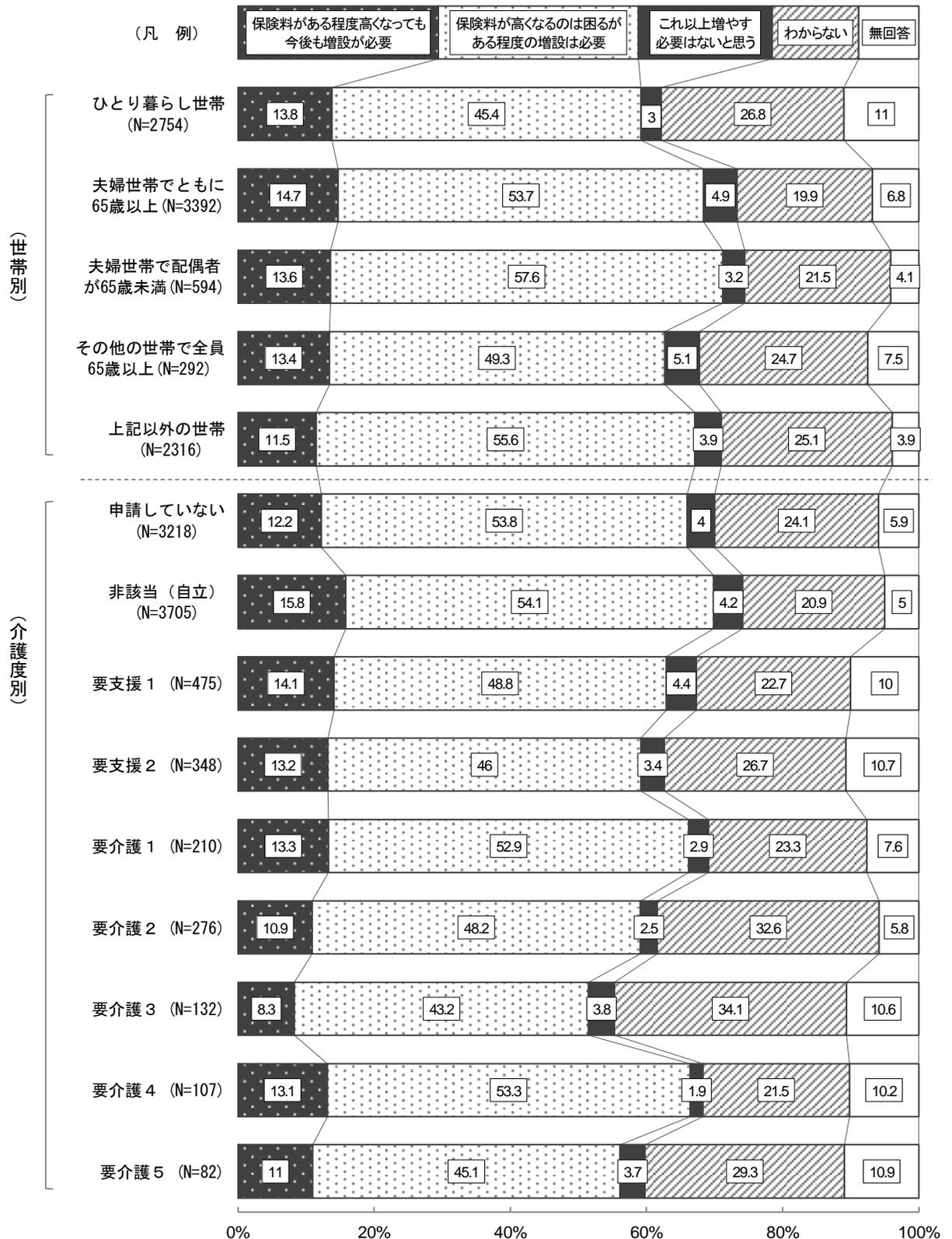


(5) 将来の介護や援護に対する考え

問26 特別養護老人ホームの整備に対する考え (世帯別・介護度別)

・世帯別にみると、特別養護老人ホームの増設が必要と考える人の割合は、「夫婦で配偶者が65歳未満の世帯」が71.2%で最も多く、「ひとり暮らし世帯」は59.2%で最も少ない。
 ・介護度別では、特別養護老人ホームの増設が必要と考える人の割合は、「非該当(自立)」が69.9%で最も多く、次いで「要介護4」が66.4%、「要介護1」が66.2%となっている。一方、「要介護3」が51.5%で最も少ない。

【図26-b 特別養護老人ホームの整備に対する考え(世帯別・要介護度別)】

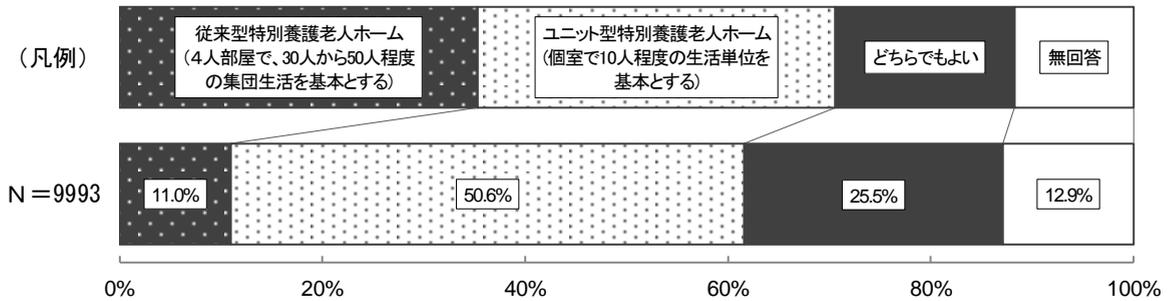


(5) 将来の介護や援護に対する考え

問27 特別養護老人ホームの入所に関する意向

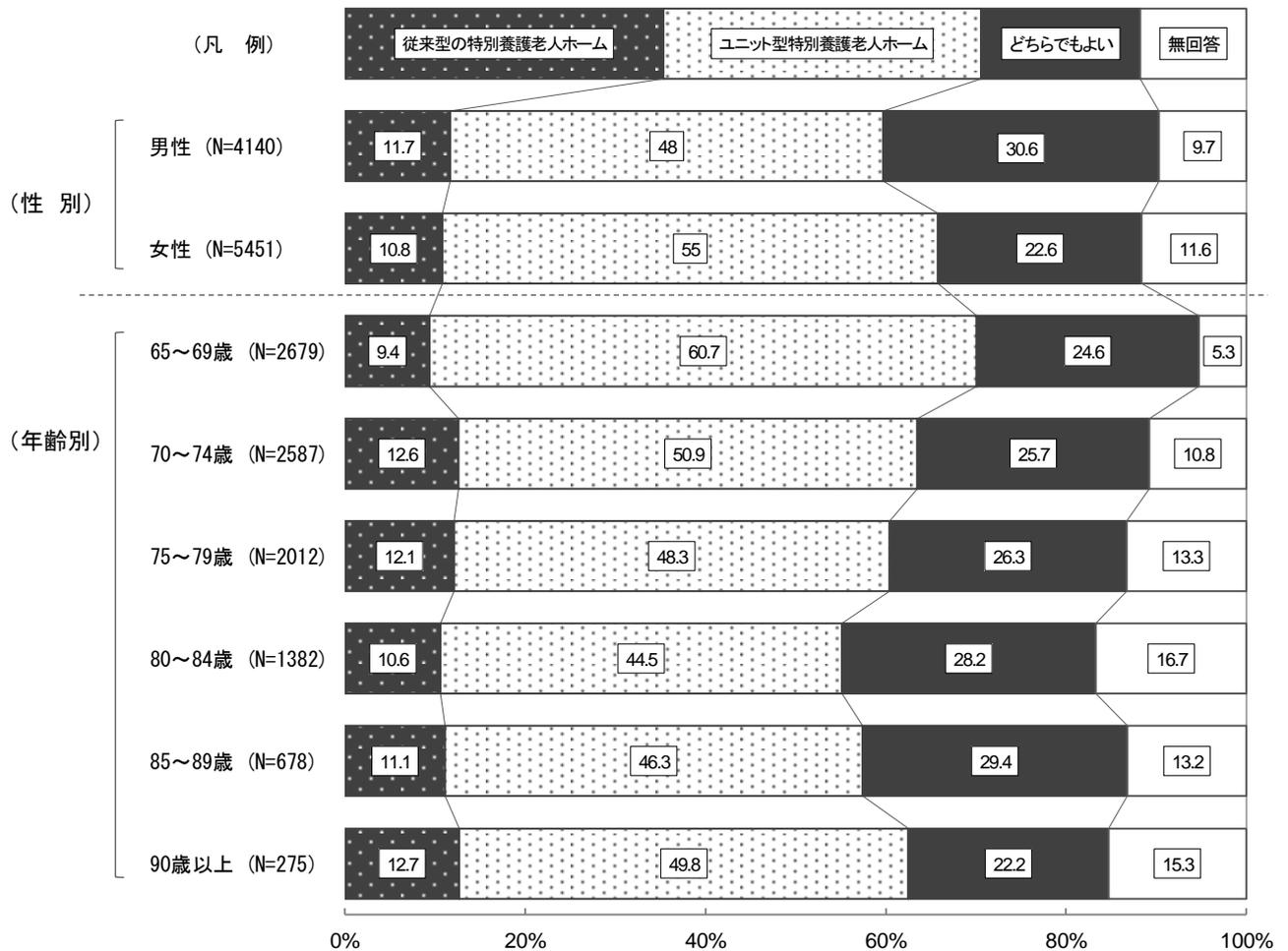
・入所したい施設については、「ユニット型特別養護老人ホーム」が5割を超えており、従来型特別養護老人ホームに比べて、大幅に多くなっている。

【図27 特別養護老人ホームの入所に関する意向】



・性別でみると、女性は「ユニット型特別養護老人ホーム」を希望する割合が高い。
 ・年齢別では、65～69歳の方は、「ユニット型特別養護老人ホーム」の割合が60.7%で最も多く、「従来型特別養護老人ホーム」が9.4%と最も少ない。また、いずれの年齢区分とも「ユニット型特別養護老人ホーム」の希望する割合が最も高くなっている。

【図27-a 特別養護老人ホームの入所に関する意向(性別・年齢別)】

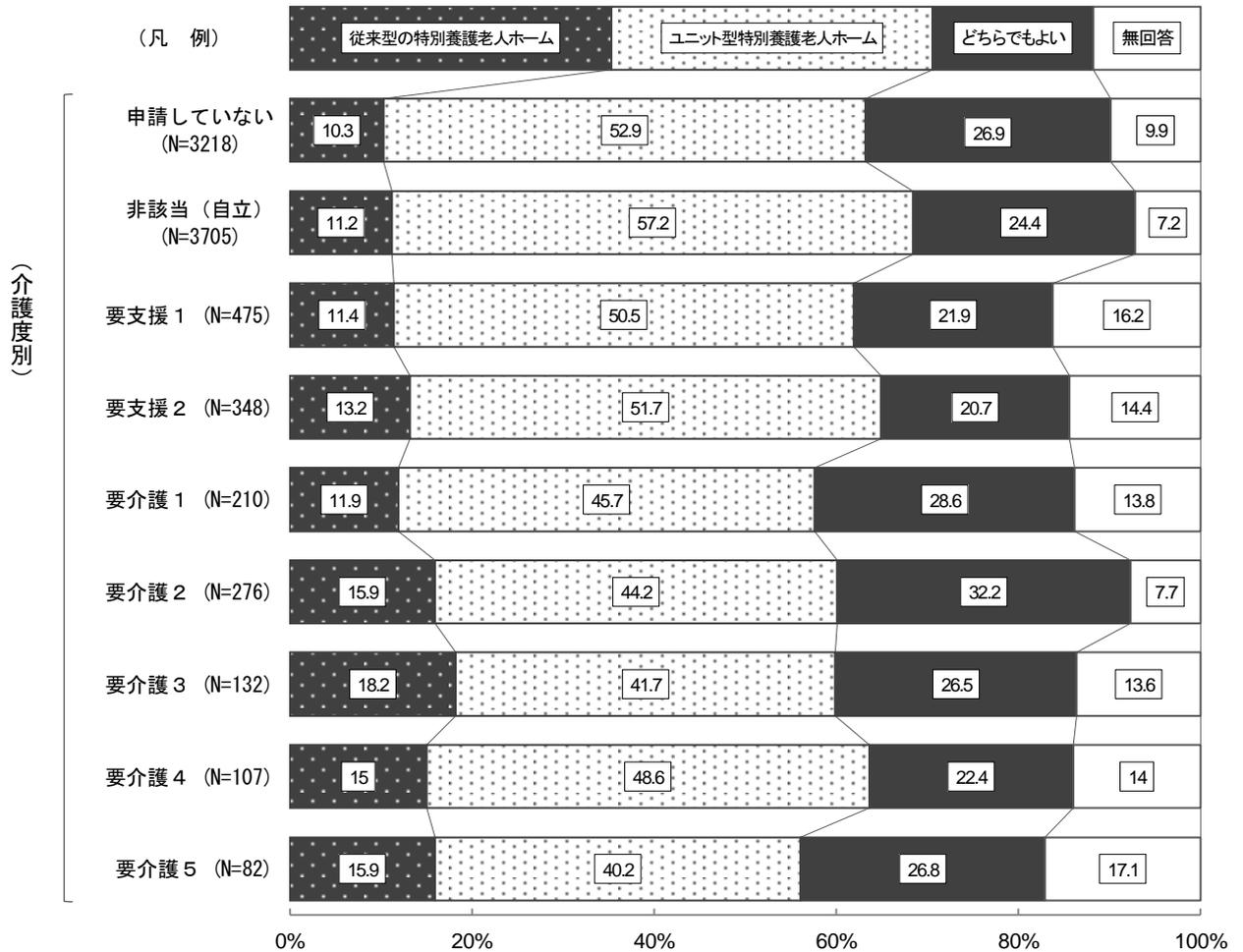


(5) 将来の介護や援護に対する考え

問27 特別養護老人ホームの入所に関する意向 (介護度別)

- ・介護度別でみると、要介護2以上では、他と比べて「従来型の特別養護老人ホーム」の回答がやや多い。
- ・要支援2まででは「ユニット型特別養護老人ホーム」と回答する方は、5割を超えている。

【図27-a 特別養護老人ホームの入所に関する意向(介護度別)】

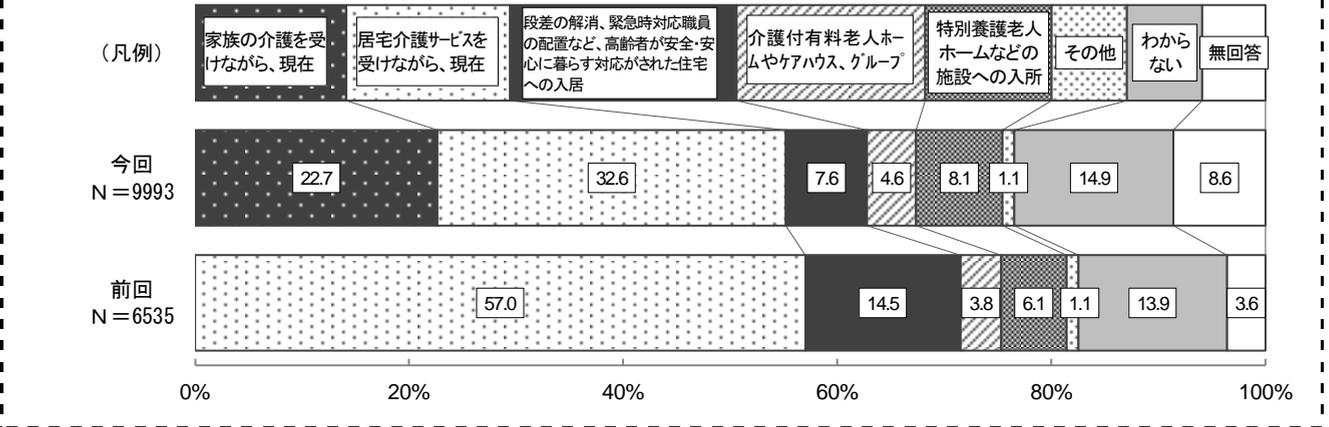


(5) 将来の介護や援護に対する考え

問28 介護や援護が必要になった場合に希望する暮らし方

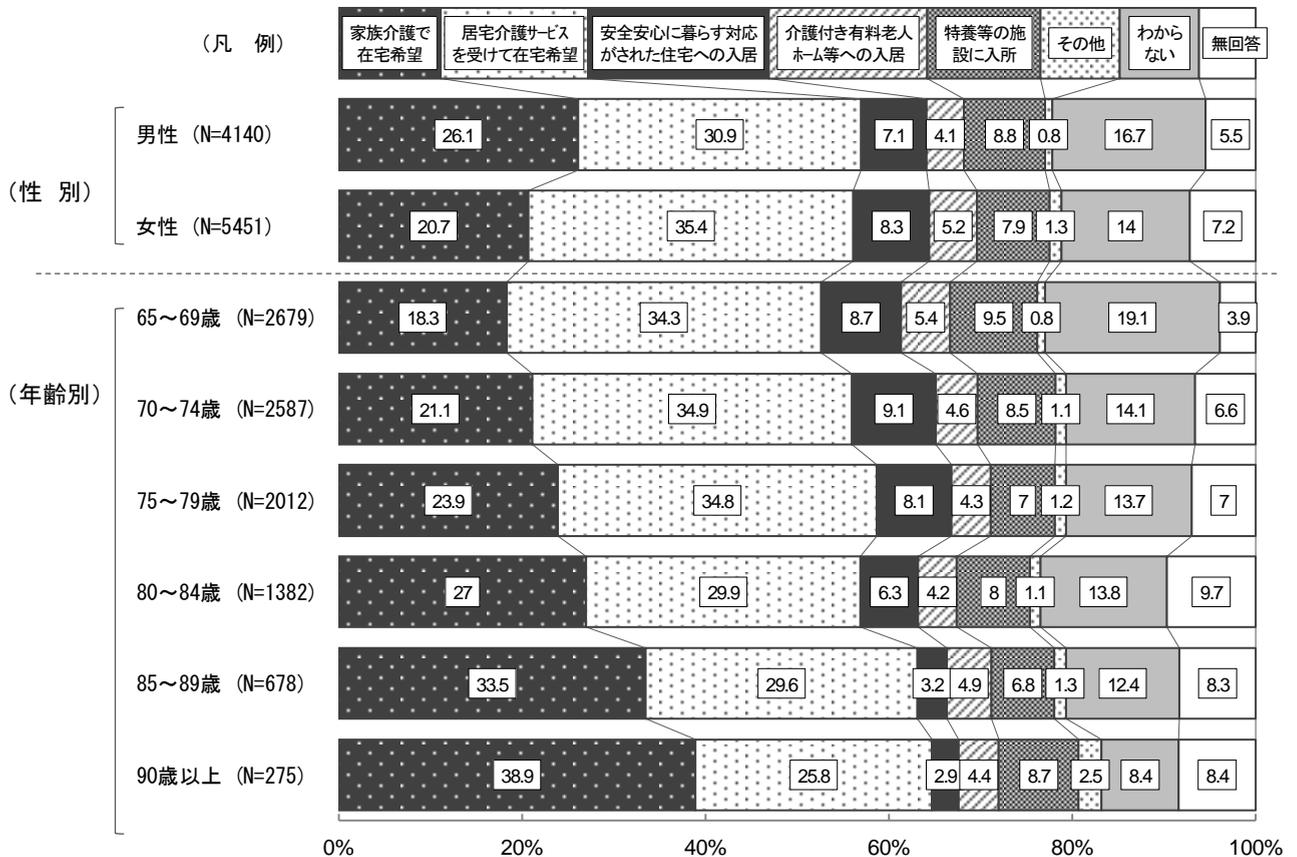
・将来の希望する暮らし方については、「介護保険サービスの居宅介護サービスを受けながら、現在の住宅に住み続けたい」が32.6%と最も多く、「ご家族などの介護を受けながら、現在の住宅に住み続けたい」(22.7%)とあわせると、『現在の住宅に住み続けたい』との回答は、55.3%となっている。前回調査と同様、在宅を希望する割合が最も高くなっている。
 ・前回調査と比較すると、「段差の解消、緊急時対応職員の配置など、高齢者が安全・安心に暮らす対応がされた住宅への入居」は、前回より6.9ポイント低くなっている。

【図28 介護や援護が必要になった場合の希望する暮らし方】



・性別でみると、男性で「家族介護で在宅希望」が女性より5.4ポイント高く、女性は「居宅介護サービスを受けて在宅希望」が男性より4.5ポイント高い。
 ・年齢別では、「家族介護で在宅希望」が高齢になるほど多くなり、「居宅介護サービスを受けて在宅希望」とほぼ逆の傾向が見られる。また、65～69歳で「わからない」と答えた人がやや多くなっている。

【図28-a 介護や援護が必要になった場合の希望する暮らし方(性別・年齢別)】

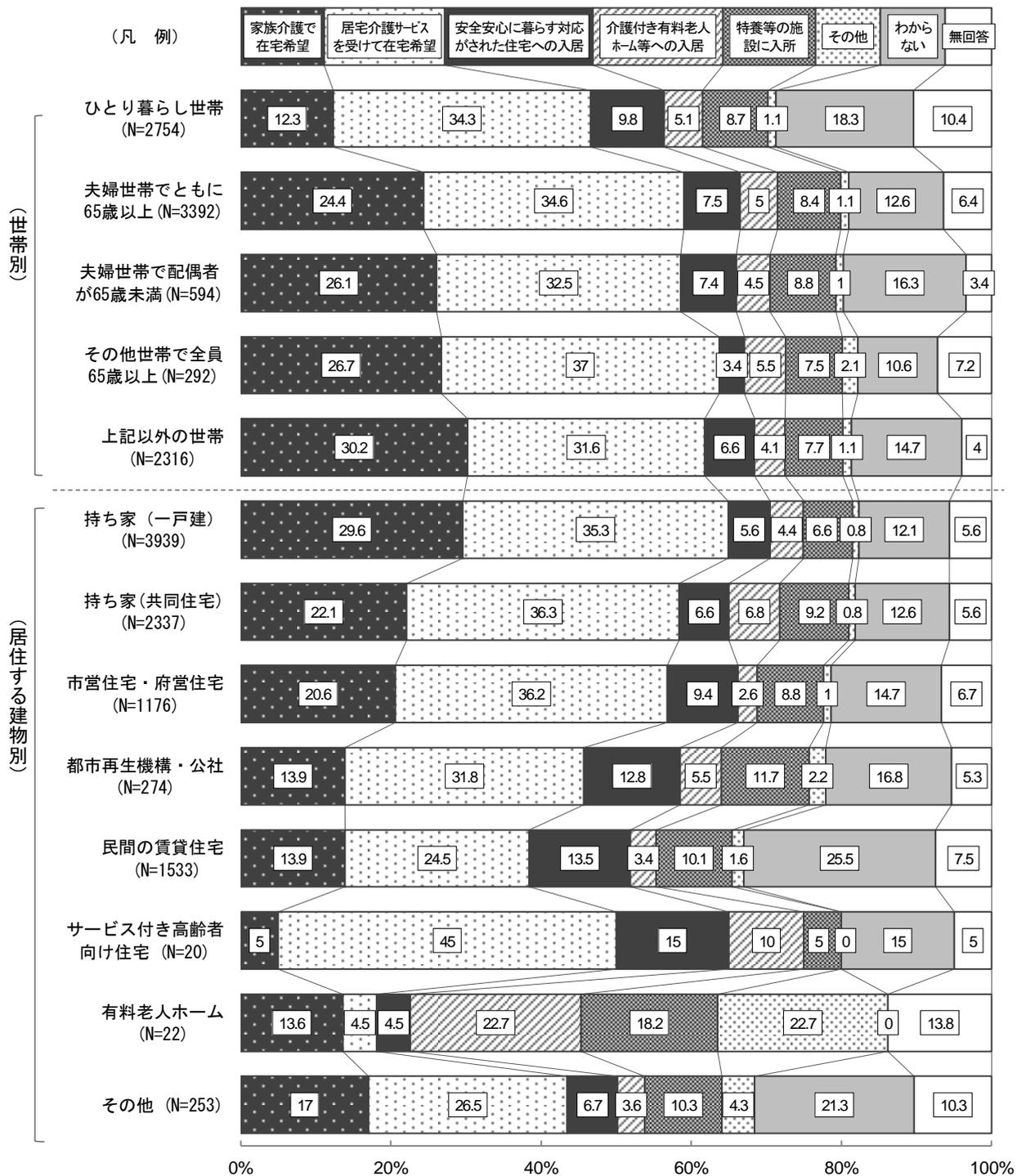


(5) 将来の介護や援護に対する考え

問28 介護や援護が必要になった場合に希望する暮らし方 (世帯別・居住する建物別)

- ・世帯別で見ると、いずれの世帯でも現在の住宅に住み続けることへの希望が多くなっている。ひとり暮らし世帯では、「安心安全に暮らす対応がされた住宅への入居」が他の世帯よりも多い。
- ・居住する建物別で見ると、現在の住宅に住み続けることへの希望は、持ち家（一戸建）が最も多い。

【図28-b 介護や援護が必要になった場合の希望する暮らし方(世帯別・居住する建物別)】

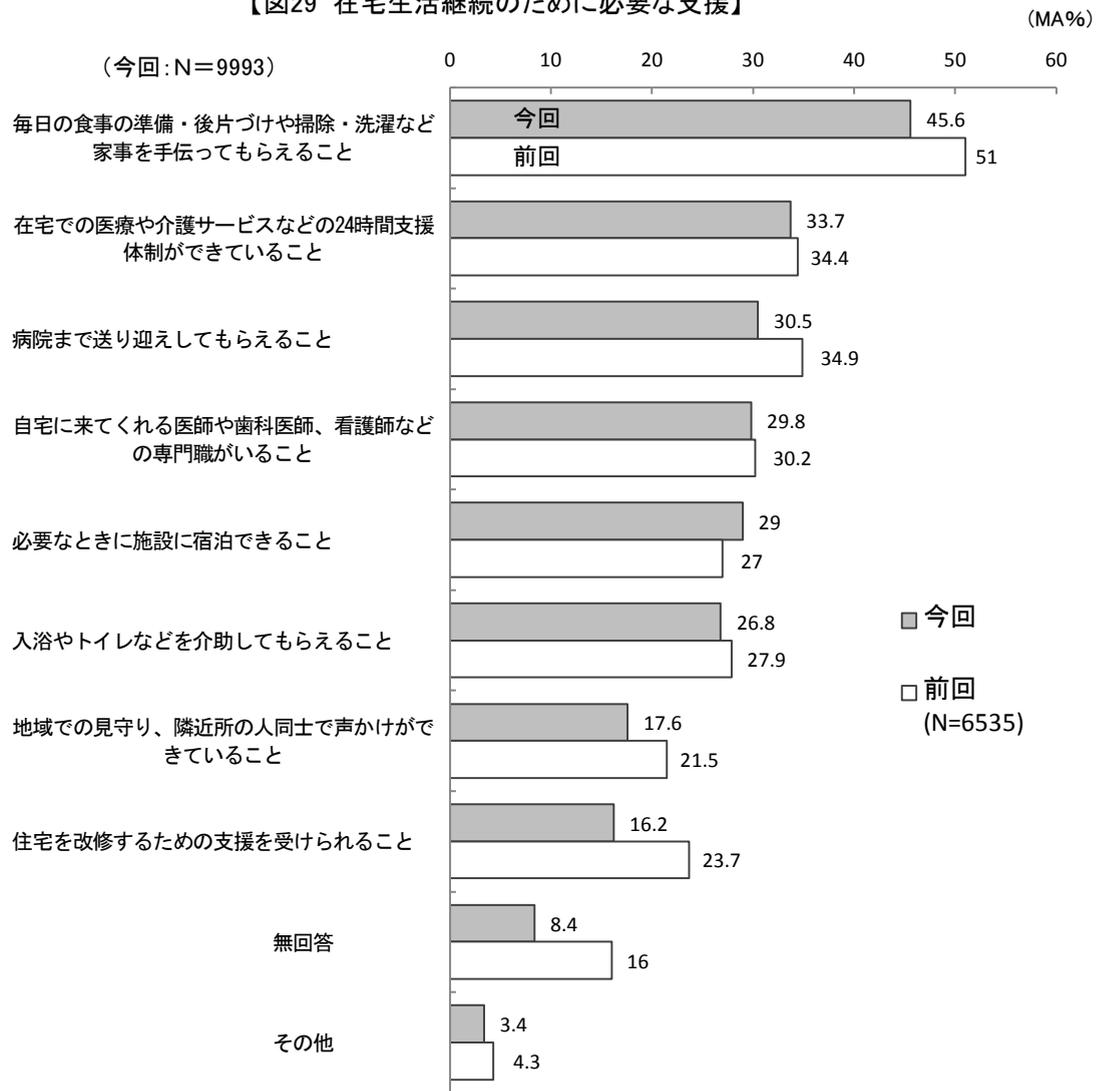


(5) 将来の介護や援護に対する考え

問29 在宅生活継続のために必要な支援 (複数回答)

・必要な支援については、「毎日の食事の準備・後片付けや掃除・洗濯など家事を手伝ってもらえること」が45.6%と最も多く、次いで「在宅での医療や介護サービスなどの24時間支援体制ができていること」が33.7%となっている。
・前回調査と比較すると、「必要なときに施設に宿泊できること」は2.0ポイント高くなっているが、他の回答はすべて前回よりも低下している。

【図29 在宅生活継続のために必要な支援】

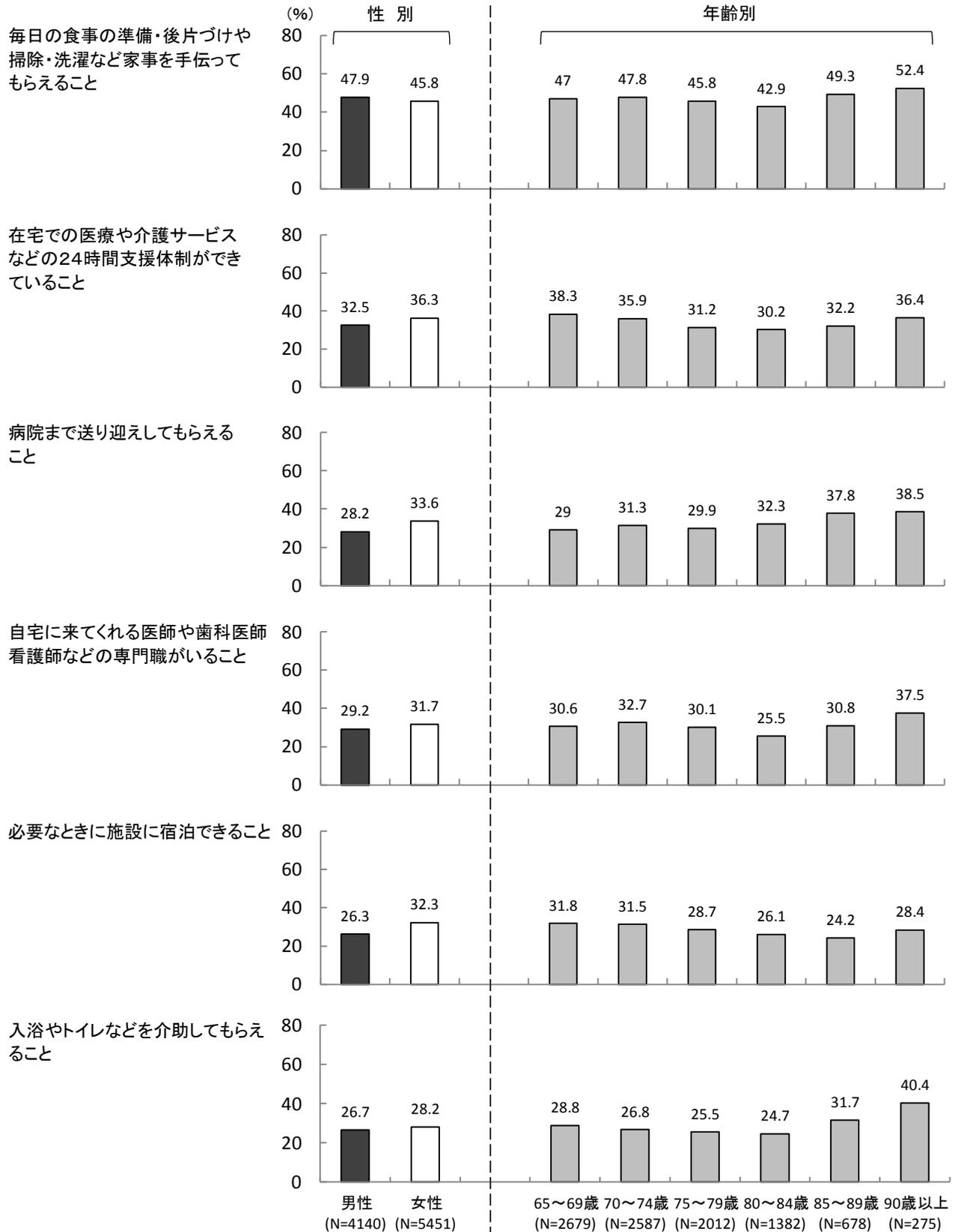


(5) 将来の介護や援護に対する考え

問29 在宅生活継続のために必要な支援 (性別・年齢別)

・性別で見ると、男女ともに「毎日の食事の準備・後片付けや掃除・洗濯など家事を手伝ってもらえること」が最も多い。
 ・年齢別で見ても、「毎日の食事の準備・後片付けや掃除・洗濯など家事を手伝ってもらえること」が全ての年齢層で最も多くなっている。

【図29-a 在宅生活継続のために必要な支援(性別・年齢別)】

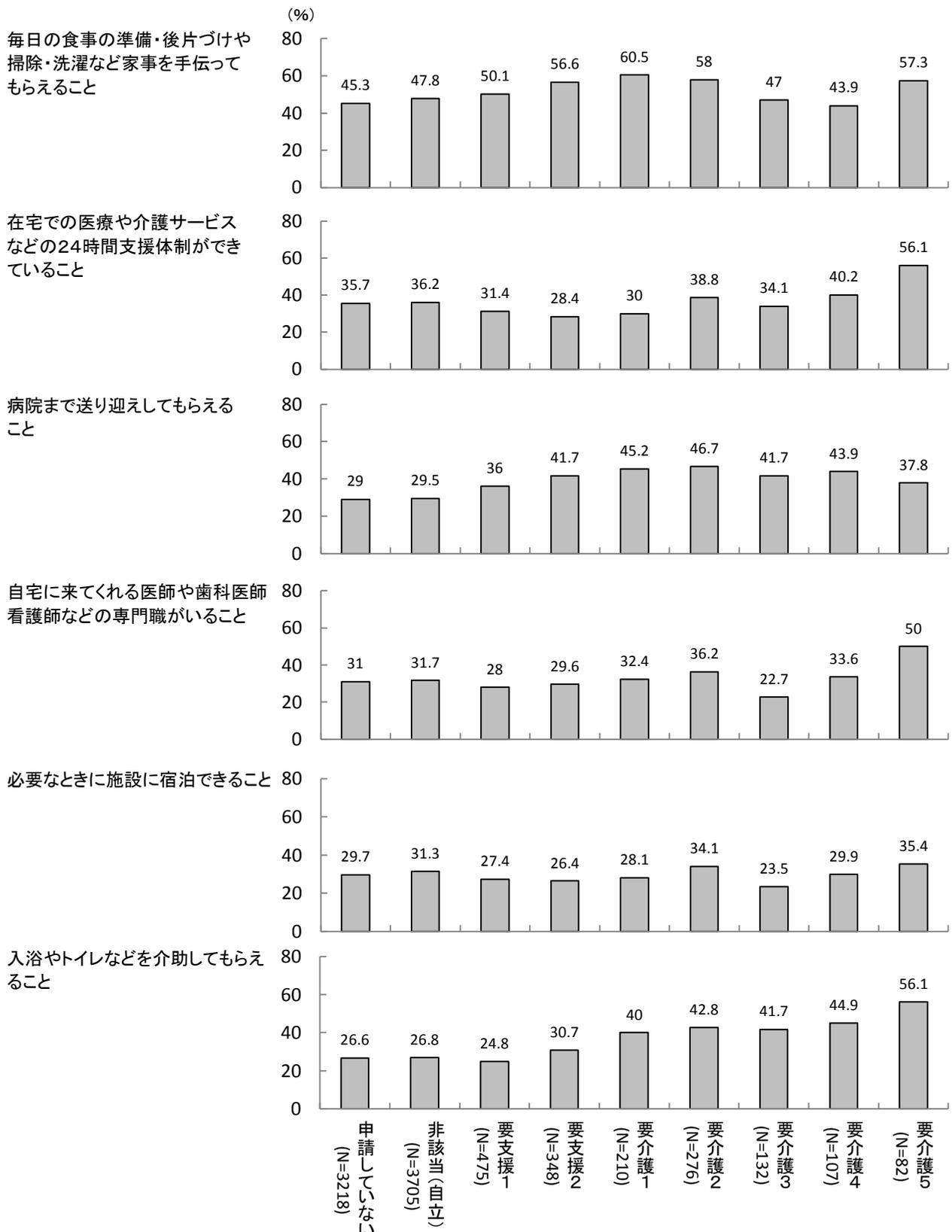


(5) 将来の介護や援護に対する考え

問29 在宅生活継続のために必要な支援 (介護度別)

・介護度別では、「毎日の食事の準備・後片付けや掃除・洗濯など家事を手伝ってもらえること」が要介護4を除いて最も多い。
 ・「病院まで送り迎えしてもらえること」は、非該当(自立)及び要介護5以外では、各介護度の中で2番目に多くなっている。一方、「必要なときに施設に宿泊できること」は、いずれの介護度においても概ね低い傾向にある。

【図29-b 在宅生活継続のために必要な支援(介護度別)】



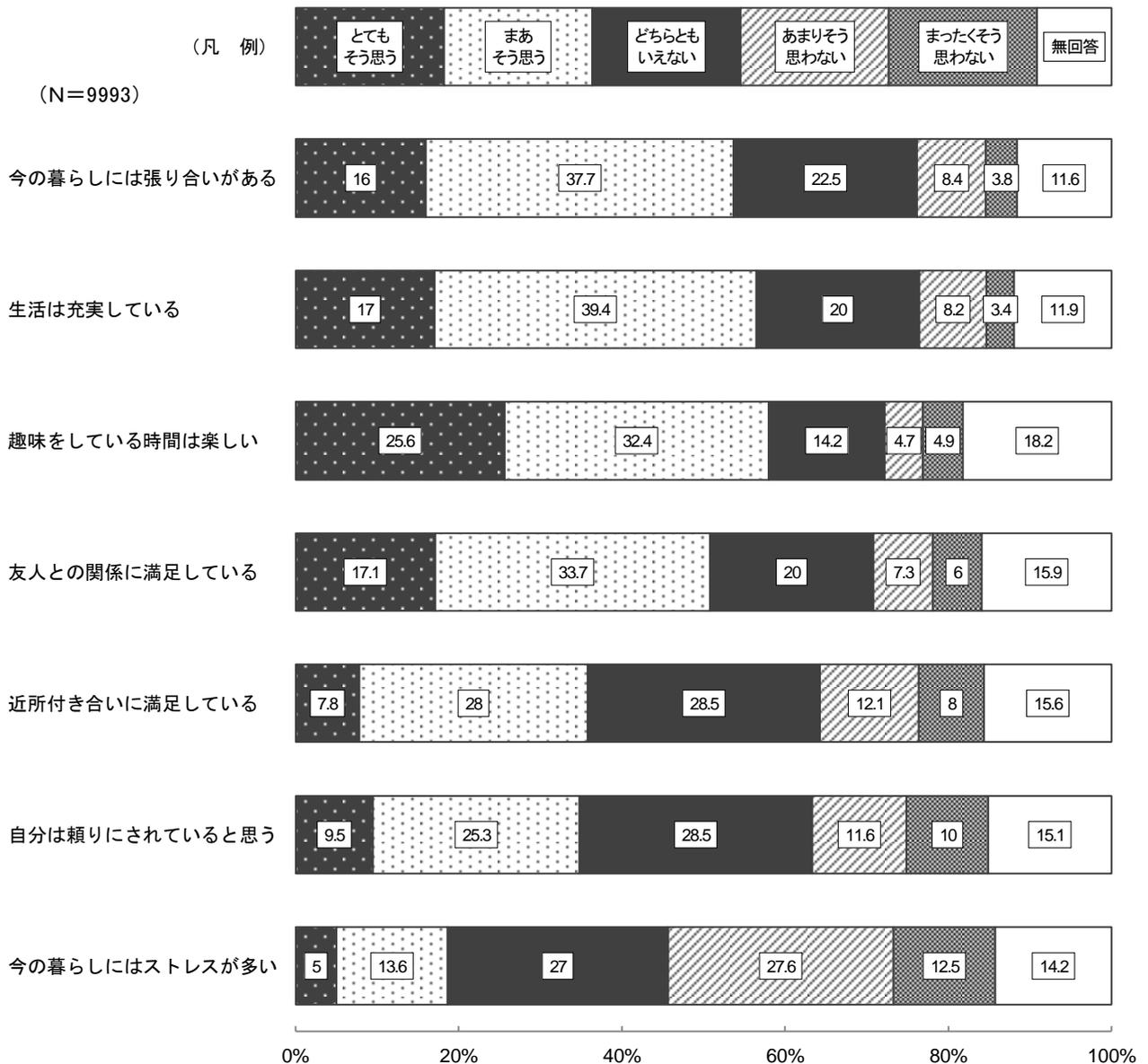
(5) 現在の暮らしに対する考え

問30 現在の暮らしに対する気持ち

・現在の暮らしに対する気持ちは、「趣味をしている時間は楽しい」について「とてもそう思う」「まあそう思う」をあわせて58.0%となっており最も高い。また、「今の暮らしには張り合いがある」「生活は充実している」「友人との関係は満足している」については、50%を超えている。

・一方、「近所付き合いに満足している」「自分は頼りにされていると思う」については、「とてもそう思う」「まあそう思う」をあわせた割合が低くなっている。
 ・「今の暮らしにはストレスが多い」のみ逆の問いとなっており、「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」をあわせると、4割程度となっている。

【図30 現在の生活について感じる事】

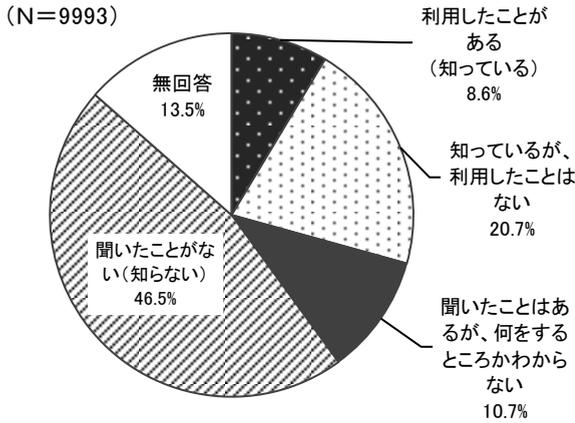


(6) 地域生活支援

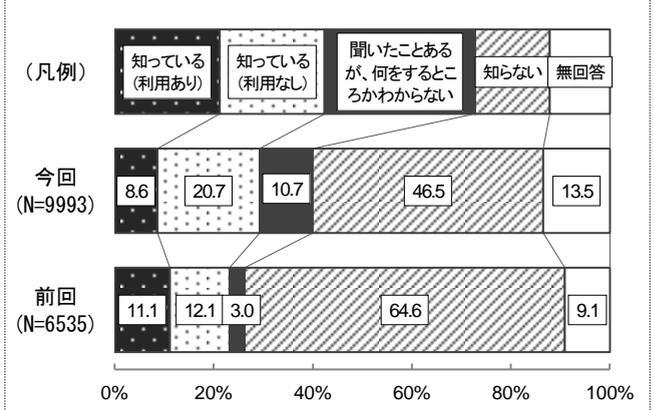
問31 地域包括支援センター等の利用・認知状況

・地域包括支援センターまたは総合相談窓口（ブランチ）の利用や認知状況については、「利用したことがある」「知っているが利用したことはない」は計29.3%あり、「聞いたことはあるが、何をするとところかはわからない」は10.7%となっている。一方、地域包括支援センター等を「知らない」方の割合は、46.5%となっている。
 ・前回調査と比較すると「知っている」との回答が6.1ポイント増え、「知らない」は18.1ポイント減少している。

【図31 地域包括支援センター等の利用・認知状況】

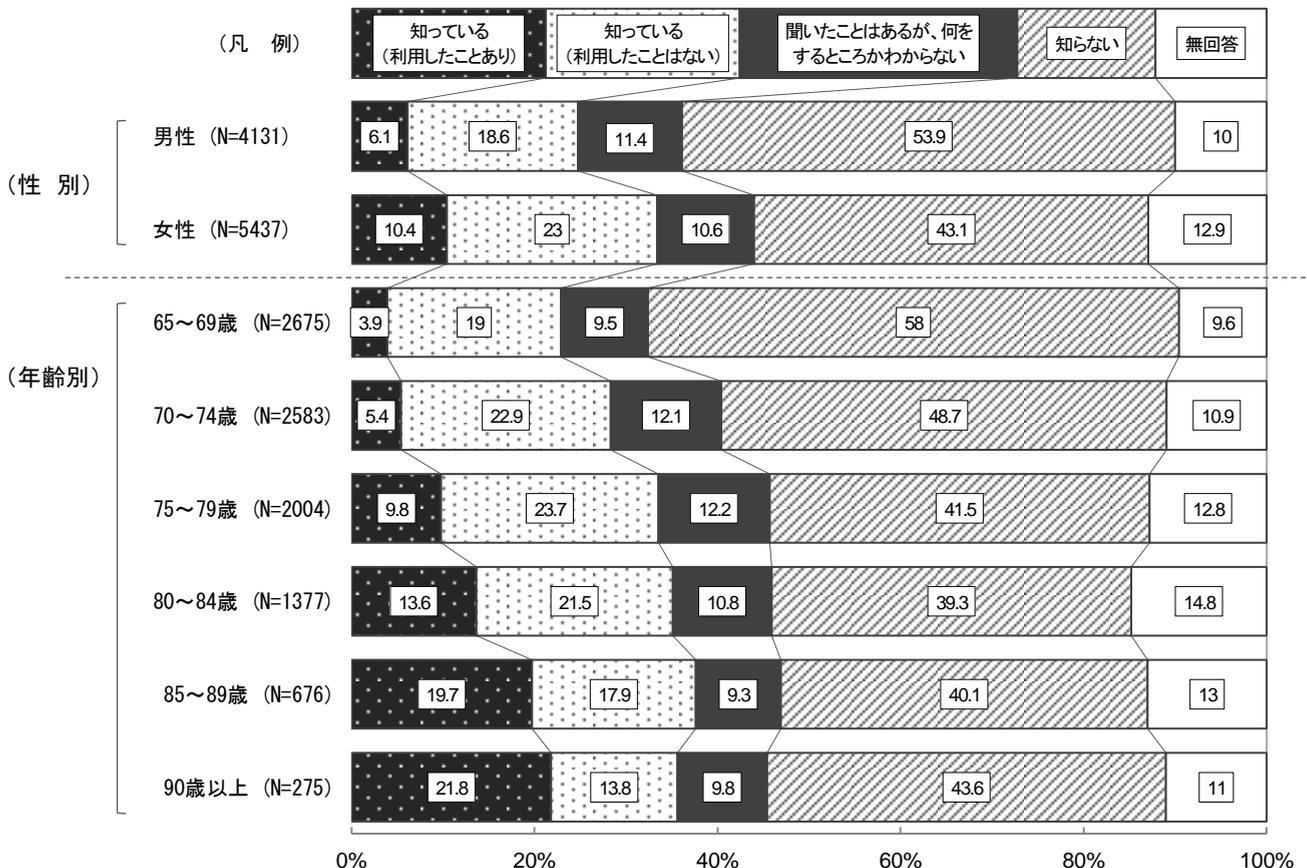


【図31-1 地域包括の利用・認知状況(比較)】



・性別でみると、「知っている」と回答した人は、利用の有無にかかわらず女性の割合が高い。「知らない」は、男性の方が多い。
 ・年齢別では、概ね高齢になるほど「知っている」の回答が多くなっている。

【図31-a 地域包括支援センター等の利用・認知状況(性別・年齢別)】

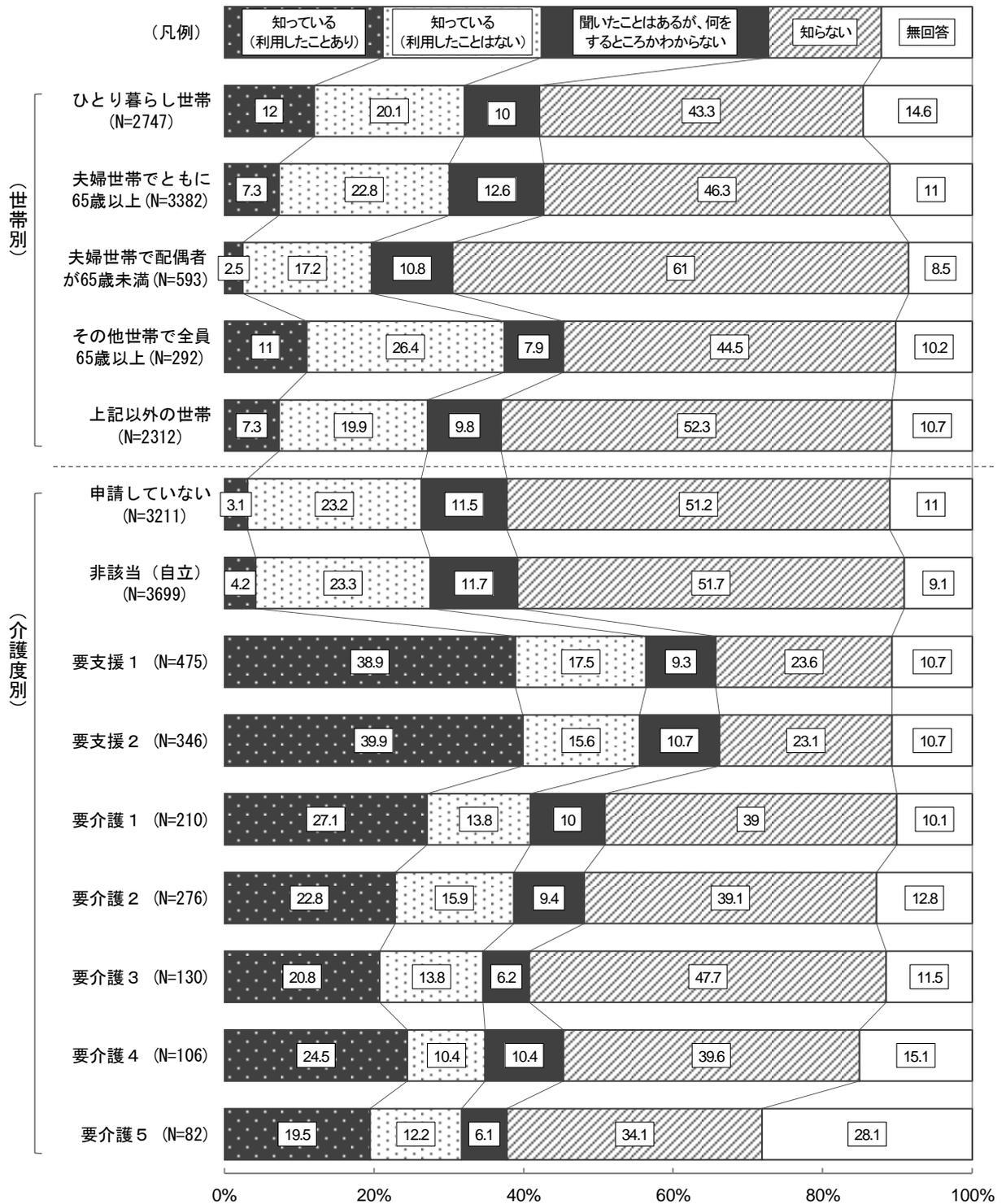


(6) 地域生活支援

問31 地域包括支援センター等の利用・認知状況 (世帯別・介護度別)

・世帯別でみると、利用の有無にかかわらず「知っている」は、「その他世帯で全員65歳以上の世帯」が最も多く、次いで「ひとり暮らし世帯」となっている。また、「夫婦のみで配偶者が65歳未満の世帯」では最も少ない。
 ・介護度別では、利用の有無にかかわらず「知っている」は、要支援1及び2がほぼ同値で最も多く、申請していない、非該当(自立)はほぼ同値で少なくなっている。

【図31-b 地域包括支援センター等の利用・認知状況(世帯別・介護度別)】

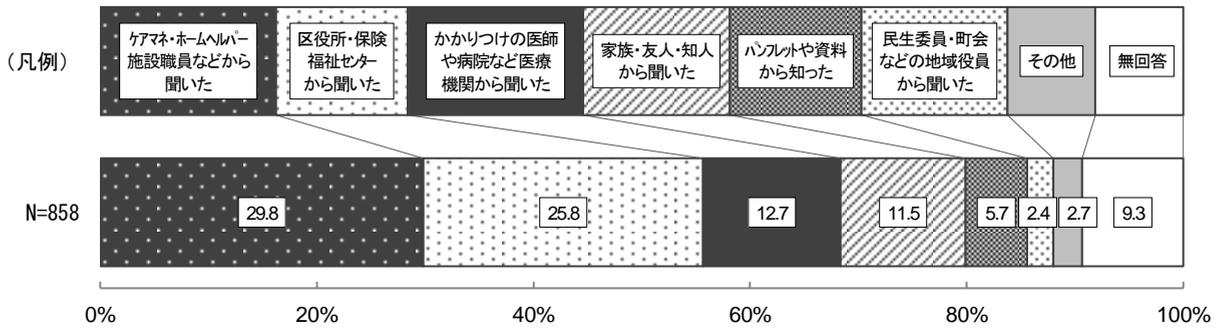


(6) 地域生活支援

問31-1 地域包括支援センター等を知ったきっかけ

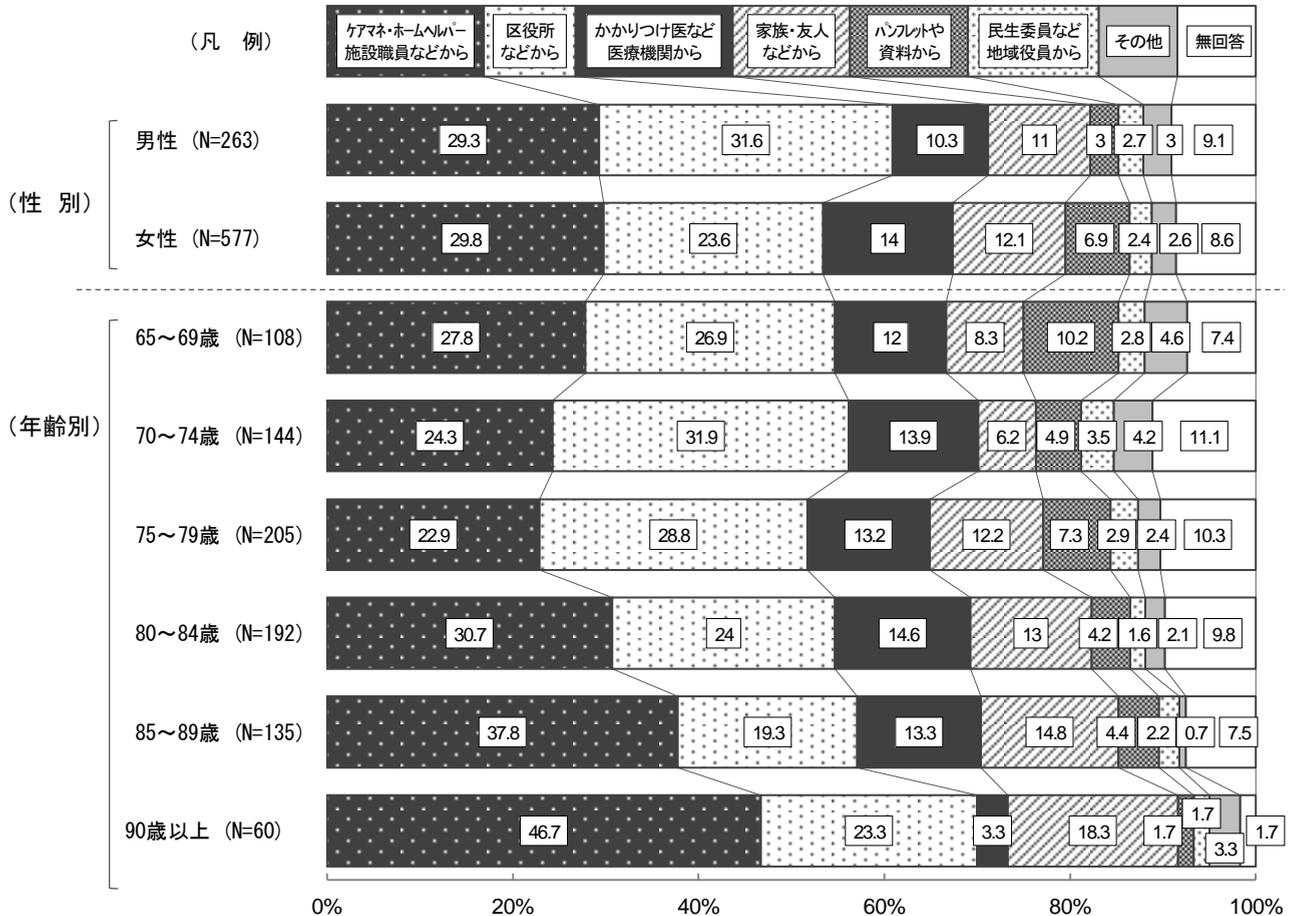
・利用したことがある人にどのようにして知ったかをたずねると、「介護支援専門員（ケアマネジャー）・ホームヘルパー・施設職員などから聞いた」が29.8%で最も多く、次いで「区役所・保健福祉センターから聞いた」が25.8%、「かかりつけの医師や病院など医療機関から聞いた」が12.7%となっており、専門職や相談機関等を通じて知るケースが多い。

【図31-1 地域包括支援センター、ランチを知ったきっかけ】



・性別でみると、男性では「区役所などから聞いた」が多く、女性では「かかりつけ医など医療機関から聞いた」が多くなっている。
 ・年齢別では、概ね高齢になるほど「ケアマネ・ホームヘルパー施設職員などから聞いた」が多くなっており、90歳以上が最も多い。また、「パンフレットや資料から知った」は、65～69歳で最も多い。

【図31-1-a 地域包括支援センター、ランチを知ったきっかけ(性別・年齢別)】



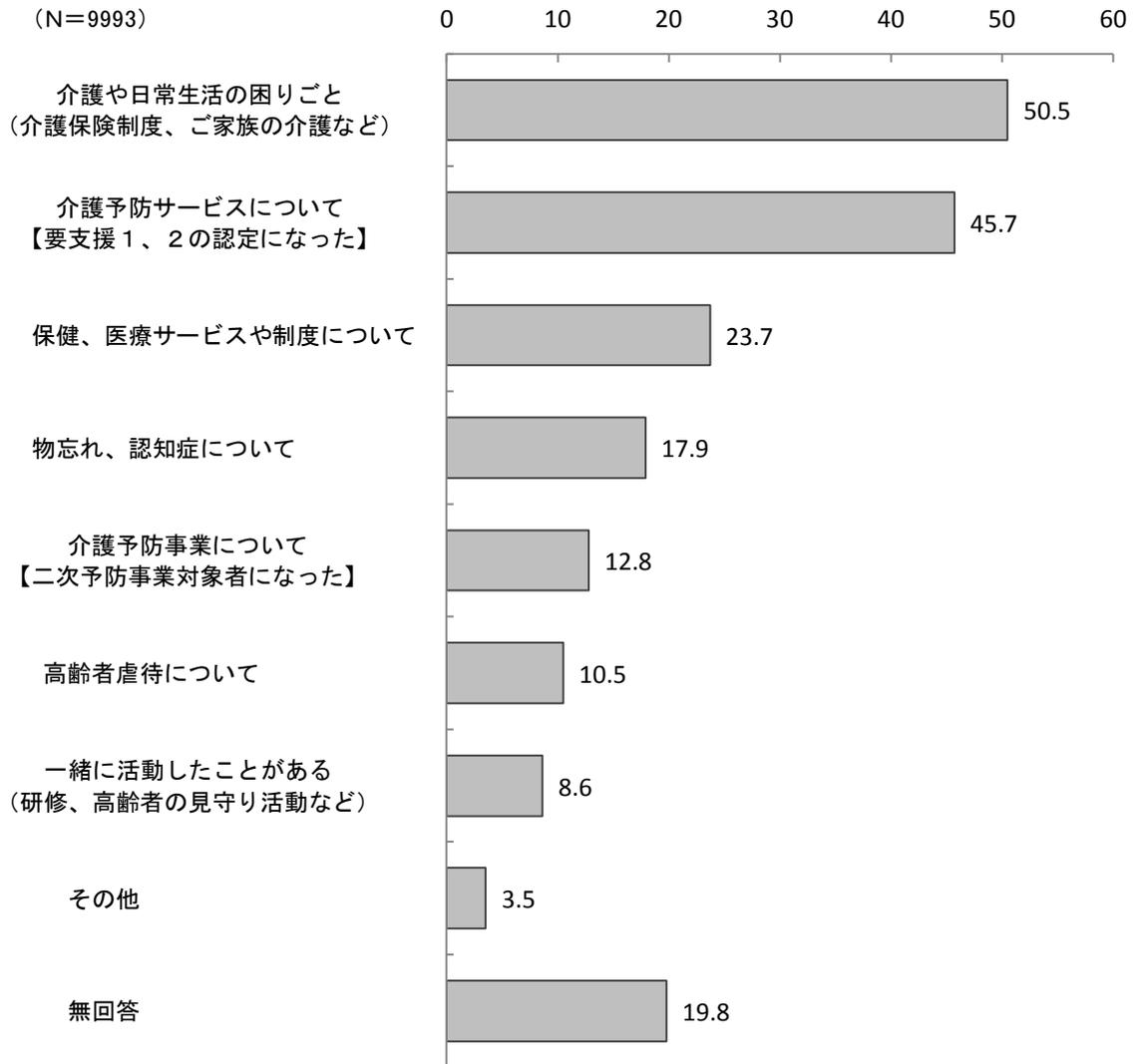
(6) 地域生活支援

問31-2 地域包括支援センター等を利用された目的

・利用したことがある人に、利用目的をたずねると、「介護や日常生活の困りごと」が50.5%で最も多く、次いで「介護予防サービスについて」が45.7%となっている。

【図31-2-1 地域包括支援センター、ランチを利用された目的】

(MA%)



(6) 地域生活支援

問31-3 地域包括支援センター等を利用した際の満足度

・利用したことがある人に、各利用目的ごとの利用時の満足度をたずねると、「介護や日常生活の困りごと」、「介護予防サービスについて」の対応についての「満足度」が高く、「高齢者虐待について」の対応は「不満」と回答した方の割合が最も多くなっている。

【図31-3 利用時の満足度】

